

特115
950

笙花乃琴
全



始



115
950



知不足齋



大正
12.11. 3
内交



為

疾風海為之
卷之五



夫れ生花の道は假初の藝のみに非ず神佛に捧げ賓客を饗應の最上とするは我國風にて且つ禮儀作法をも學ぶは世人の能く知る所なり原來草木雨露の恵によりて潤育するを覺て瓶花の水の養を以て齡を保つを悟る故に父母の大恩を顧み 國恩の恵の重きを辨へ恭敬辭遜の禮承を正くす今度生花の栞と題せし小冊を見るに生花の大意と花形等の圖解を以て初心の人の教へにもと委しく顯せられたれば師につき學べるも同じく手をとり教ゆる如くならば師なき志ある人熟覽せられれば有益のごのみならんかとはしめに述る

大正十二年

菊 月

浪花城北

木 兆 道 人

序

私は學校で花卉園藝を擔任して居りますので生花のことも研究して見たいと思ひまして笹岡氏に手引を受けて居りますが氏は未生流指南の傍ら諸流の長所を研究せらるゝこと多年極めて造詣深く教授に際しては蘊蓄を披瀝して懇切を盡さるゝ故門に集ふ者愈々多く曩には畏くも久邇宮兩殿下智子女王殿下御台覽の榮を擔はれ益々盛に斯道發展の爲盡粹して居られます。

從來華道指南に當る人は口傳等を妄りに秘して斯道の發達を妨ぐるこそが少くないと思ひますが氏はこの點を顧慮せらるゝこと久しく今回攝政宮殿下御成婚記念として日頃の蘊蓄を傾けて華道傳書の口傳を全部婚禮床飾り六つ玉川其他轡組方七曲の花

型等より初心者の枝葉掃除法、枝葉揉方、配木の張方、野線にて花型割出方等に到る迄細密なる圖解説明入りの寶典を發行せられました。初心者と雖も一讀して容易に生花の智識と技巧に達するを得又熟達せる人々に取りても研究の好資料として必讀の良書であるを信じます。

この得難き寶典が華道研究者に多大の福音を齎さんことを切望して茲に淺學非才を顧みず序文を識す所以であります。

府立京都農林學校にて

山 添 善 治

内 容 目 次

婚禮式床飾圖解説明	六
未生流竹器起原七種飾付圖解説明	七表
花枝撰擇分解寸法圖解説明	七裏
配木仕方度數割圖解説明	八表
三才花形起原圖解説明	八裏
五行花形起原圖解説明	九表
原一花形起原圖解説明	九裏
二重三重切花型圖解説明	十表
眞の花型三才の揉方圖解説明	十裏
行の花型三才の揉方圖解説明	十一表
三才の横姿揉方圖解説明	十一裏
行の花型五行揉方圖解説明	十二表
五行横姿揉方圖解説明	十二裏
草の花形割出方圖解説明	十三表
七曲の内 内陽流割出方圖解説明	十三裏

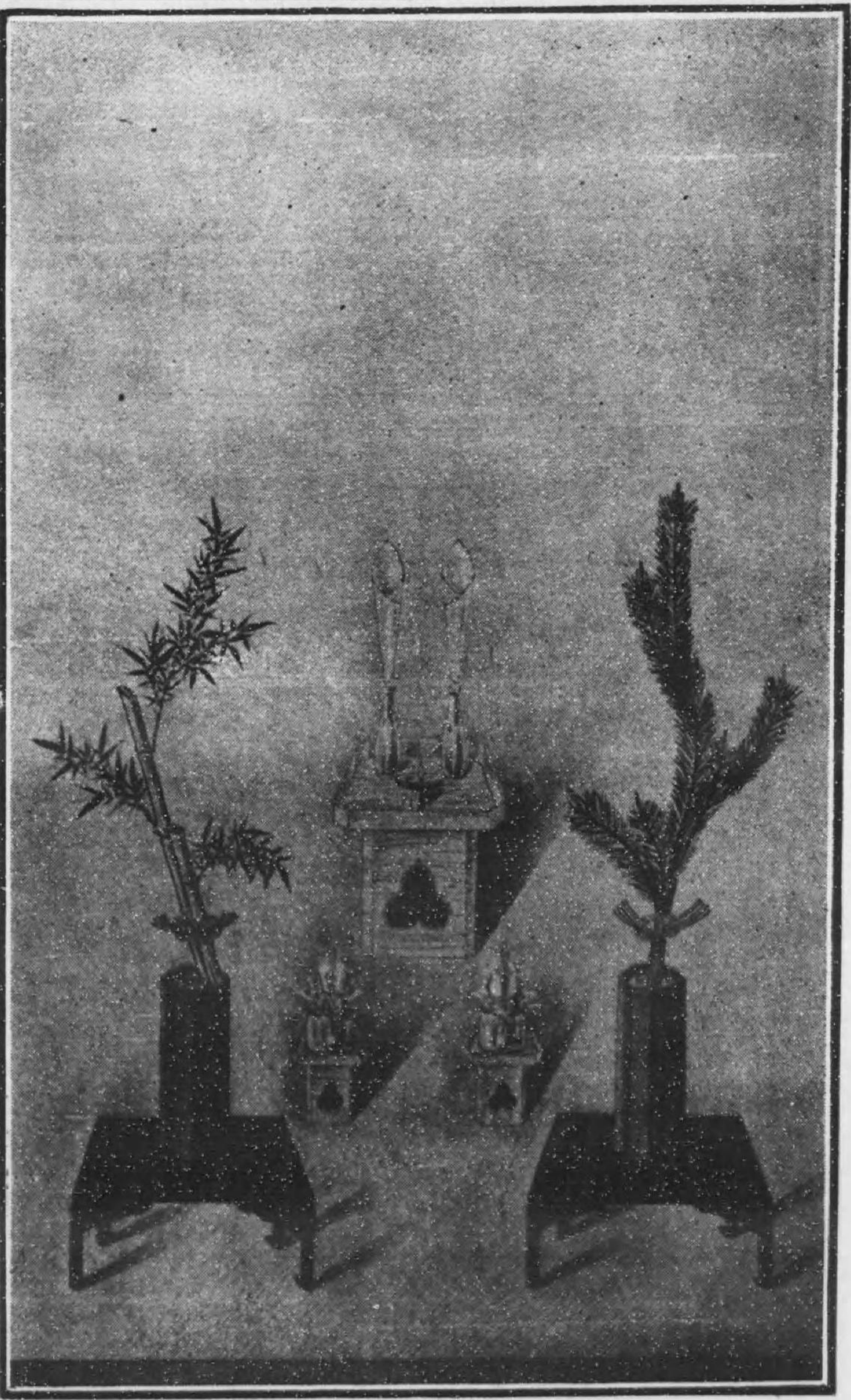
七曲の内	体流割出方圖解說明	十三裏
七曲の内	体添流割出方圖解說明	十四裏
七曲の内	体前添流割出方圖解說明	十四裏
七曲の内	留添流割出方圖解說明	十五裏
七曲の内	陽添流割出方圖解說明	十五裏
七曲の内	裏体割出方圖解說明	十六裏
木賊刈込挿方割出方圖解說明		十六裏
九十九類刈込挿方割出方圖解說明		十六裏
廣口水盤等の挿方圖解說明		十七裏
水の死活位置圖解說明		十七裏
土の死活位置圖解說明		十七裏
燕子花葉組圖解說明		十七裏
花菖蒲葉組圖解說明		十七裏
六月以後長葉物說明		十七裏
出船入船扱方圖解說明		十八裏
泊船挿方圖解說明		十八裏
帆花鱸花舟扱方圖解說明		十八裏

渚往來沖往來舟挿方圖解說明	十八裏
神社奉納挿花飾付圖解說明	十九裏
三洲八ッ橋燕子花挿方圖解說明	十九裏
嵐山櫻散景色取方圖解說明	二十裏
龍田川楓の景色取方圖解說明	二十裏
六つの玉川内	廿一裏
井手玉川景色挿方圖解說明	廿一裏
六つの玉川内	廿一裏
紀伊高野の玉川說明	廿一裏
六つの玉川内	廿二裏
攝津さぬたの玉川說明	廿二裏
六つの玉川内	廿二裏
陸奥野田の玉川說明	廿二裏
六つの玉川内	廿三裏
近江野路の玉川說明	廿三裏
六つの玉川内	廿三裏
武藏北多磨の玉川說明	廿三裏
轡水鳥組方圖解說明	廿四裏
轡龜組方圖解說明	廿四裏
轡兔組方圖解說明	廿五裏
轡御所車組方圖解說明	廿五裏
轡花車組方圖解說明	廿六裏
轡浮蛙組方圖解說明	廿六裏

掛轡取扱方圖解說明
 婚禮式客待合席床飾圖解說明
 婚禮と諸式圖解說明
 見合說明
 里出の式圖解說明
 御輿入服裝說明
 親子盃の圖解說明
 親族盃の圖解說明
 輿席圖解說明
 部屋見舞と花歸說明
 第一席合盃ノ式間圖解
 第二席盃ノ式間圖解
 第三席盃ノ式間圖解
 輿席盃ノ式間圖解

以上

廿七 表
 廿七 裏
 廿八
 廿九
 三十 表
 三十 裏
 卅一 表
 卅一 裏
 卅二 表
 卅二 裏
 卅三 表
 卅三 裏
 卅三 裏



婚禮式床飾圖解說明

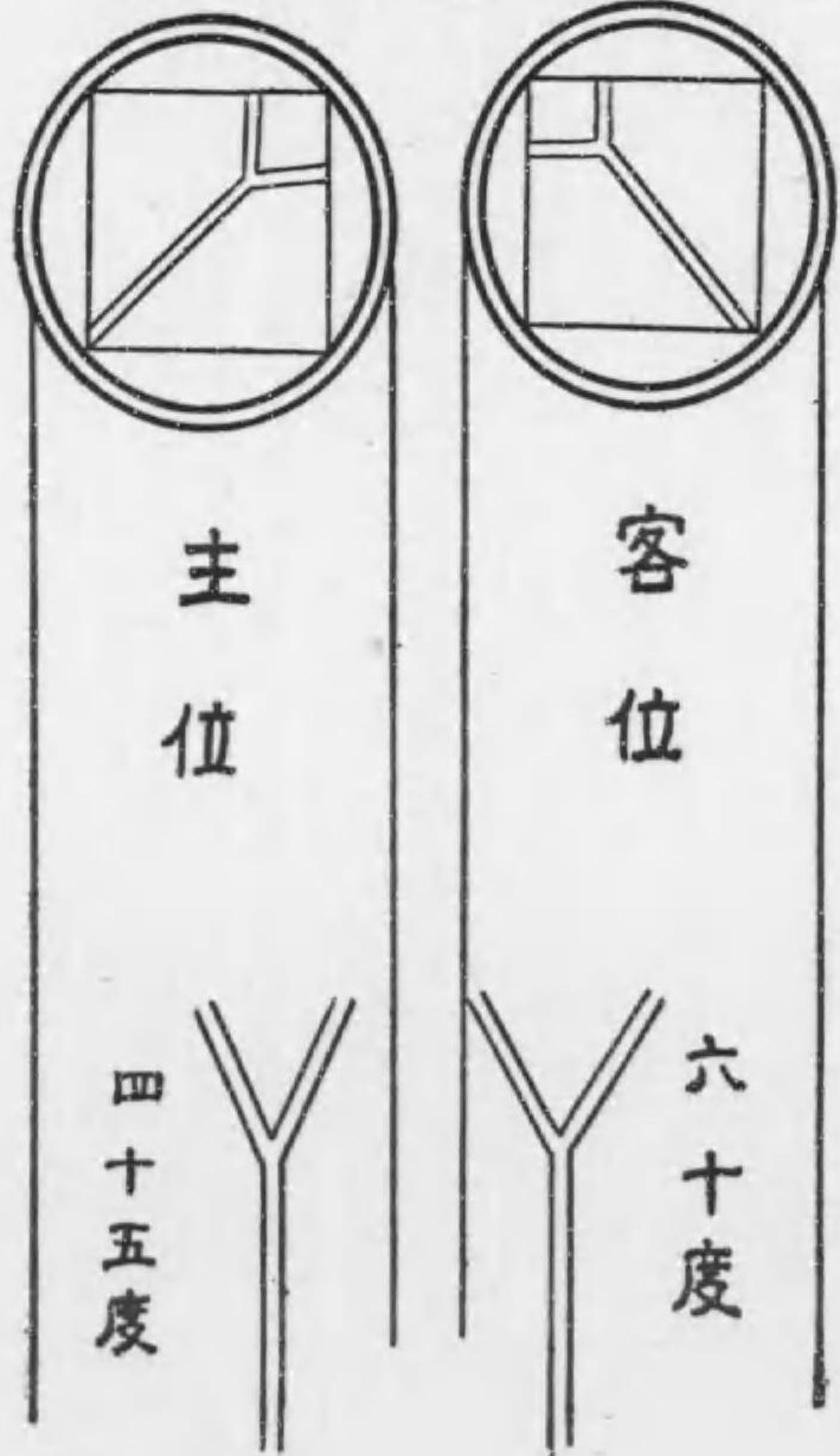
花枝選擇分解寸法圖解說明

凡て花器の初めは一尺の寸度とす花の長さ
 二尺五寸とし假りに体の枝
 長さ二尺五寸として陽の枝
 長さ体の十分の七一尺七寸
 餘留の枝長さ体十分の五一
 尺二寸五分此の三つを以て
 枝の標準とし圖の如く中央
 まで掃除し小枝に至るまで
 三枝を原度として全部中央
 より採め挿上るべし



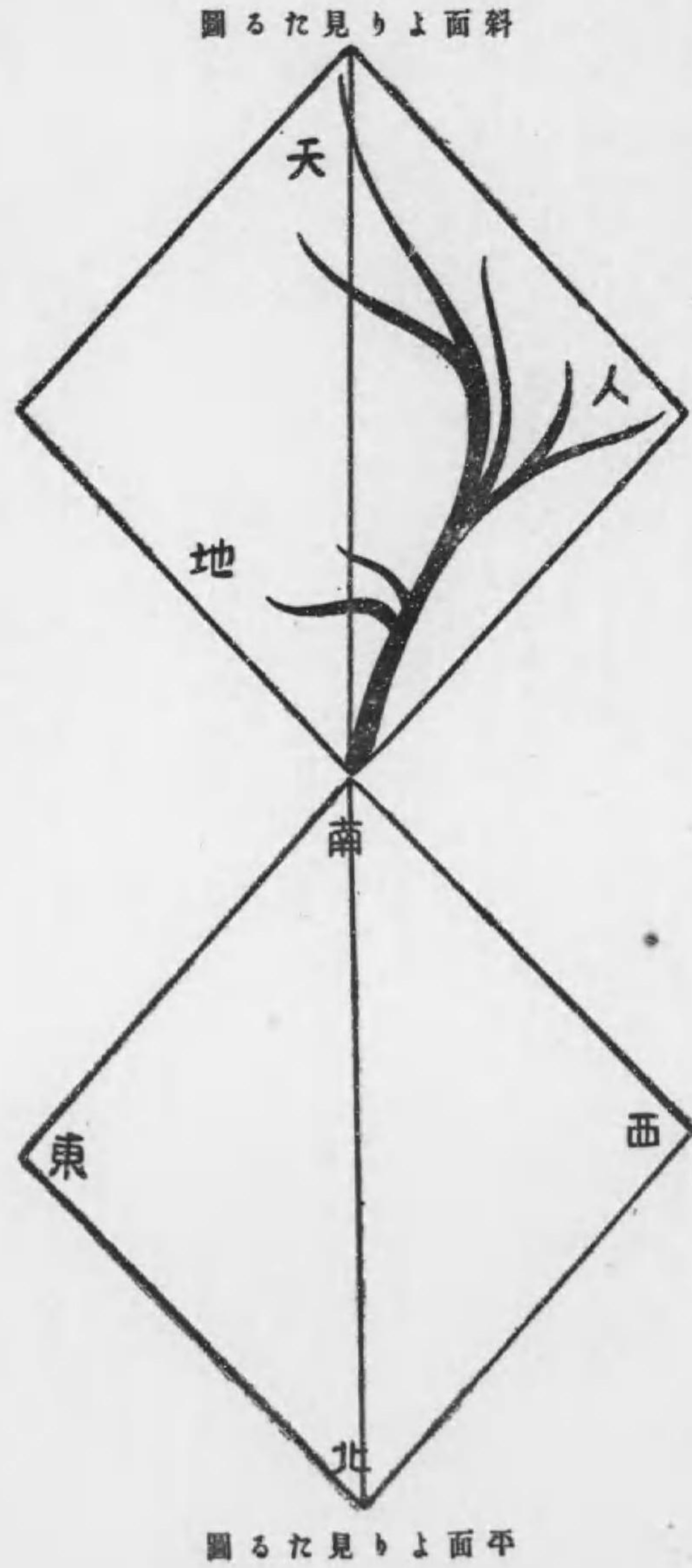
配木仕方度數割圖解說明

先花器正面に八寸あけて
 正座し花器の上口より六
 分下りたる所へ圖の如く
 角より配り普通の枝は六
 十度の配木を以てし細き
 軸葉蘭の如きものは四十
 五度の配木を以て標準と
 し挿上るべし



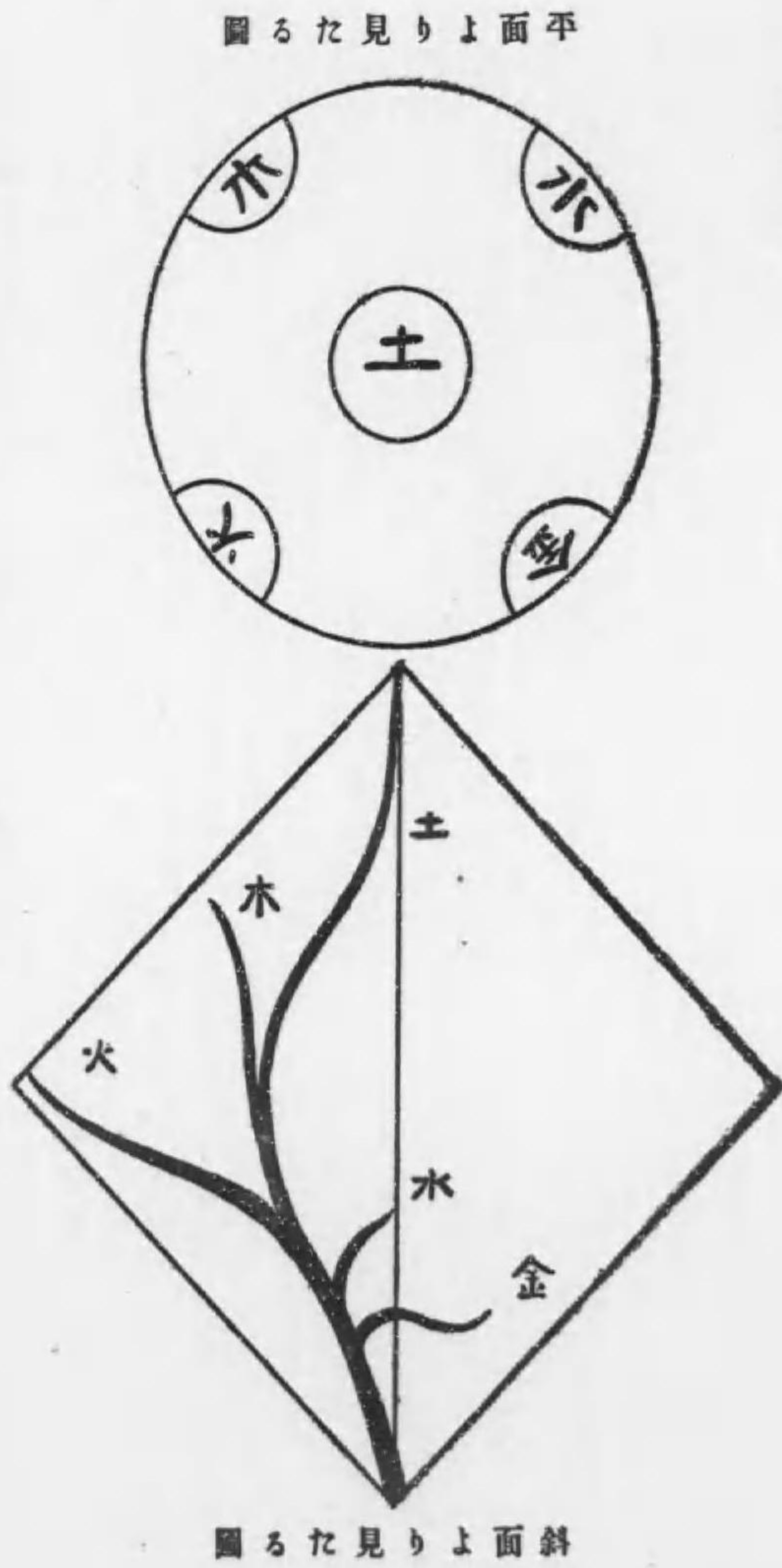
三才の花型起原圖解説明

三才の花型は東西南北を和合し斜面より見たる所を天地人三才と名稱し枝の曲方等奥に野線
を以て説明す



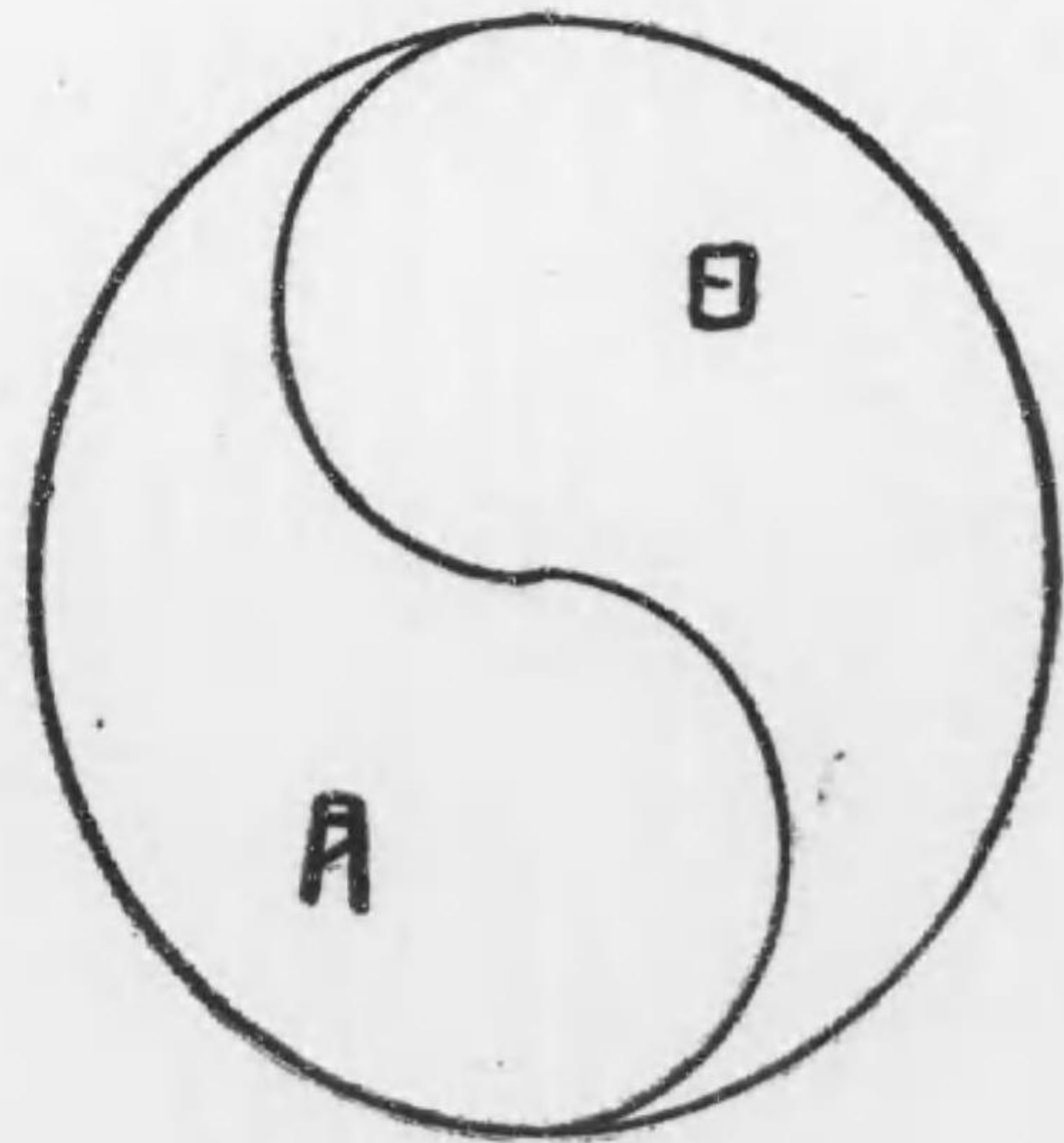
體用相應五行花形起原圖解説明

五行花形は東西南北中央と五行を出し平面より見て土火木金水と名稱し枝の曲方等奥に野線
を以て圖解説明す



原一の花型起原圖解説明

原一の花型は日月を以て陰陽と名稱す
 三才五行の如き一
 定の法則無くとも
 たとへば体が木物
 用が草物と開花一
 本と荅一本と又は
 開花一輪と葉一枚
 なるものを以て體
 用の挿方とす
 細密なる事は次回口傳集の卷に説明す



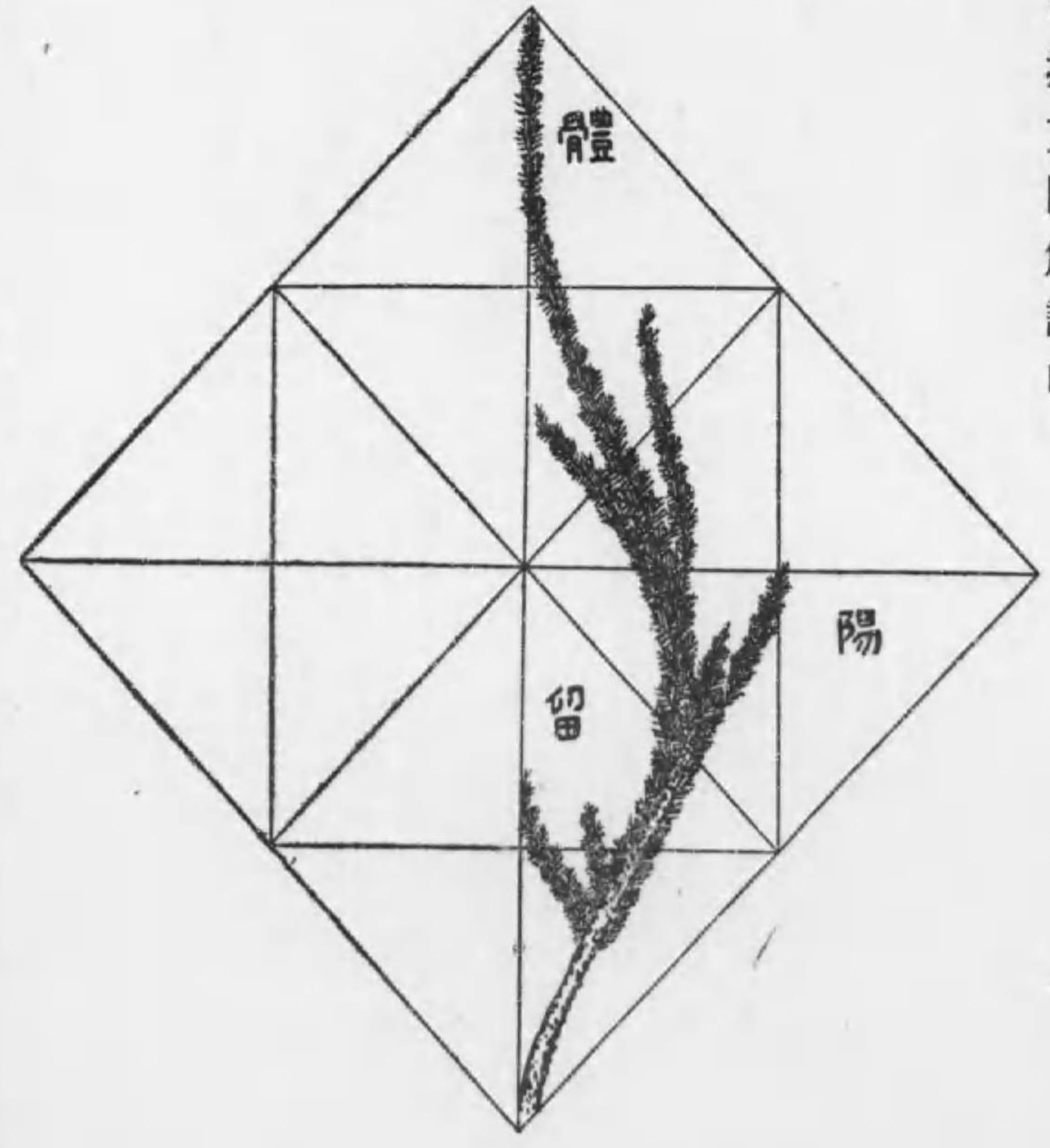
二重三重切の圖解説明

此の挿方は二重切にして上口へ豎姿を挿し下口へ横姿を挿すを定法とす三重切集筒等に種々
 草木を挿時は其性質に
 應じて挿上るべしなれ
 ども四月より十月迄は
 遠山霞と稱して木物を
 下口へ挿し上口より高
 く挿し上口へ草花を挿
 事有三重切上口は横姿
 を定法とす横姿の挿方は横姿野線割出法に注意されたし



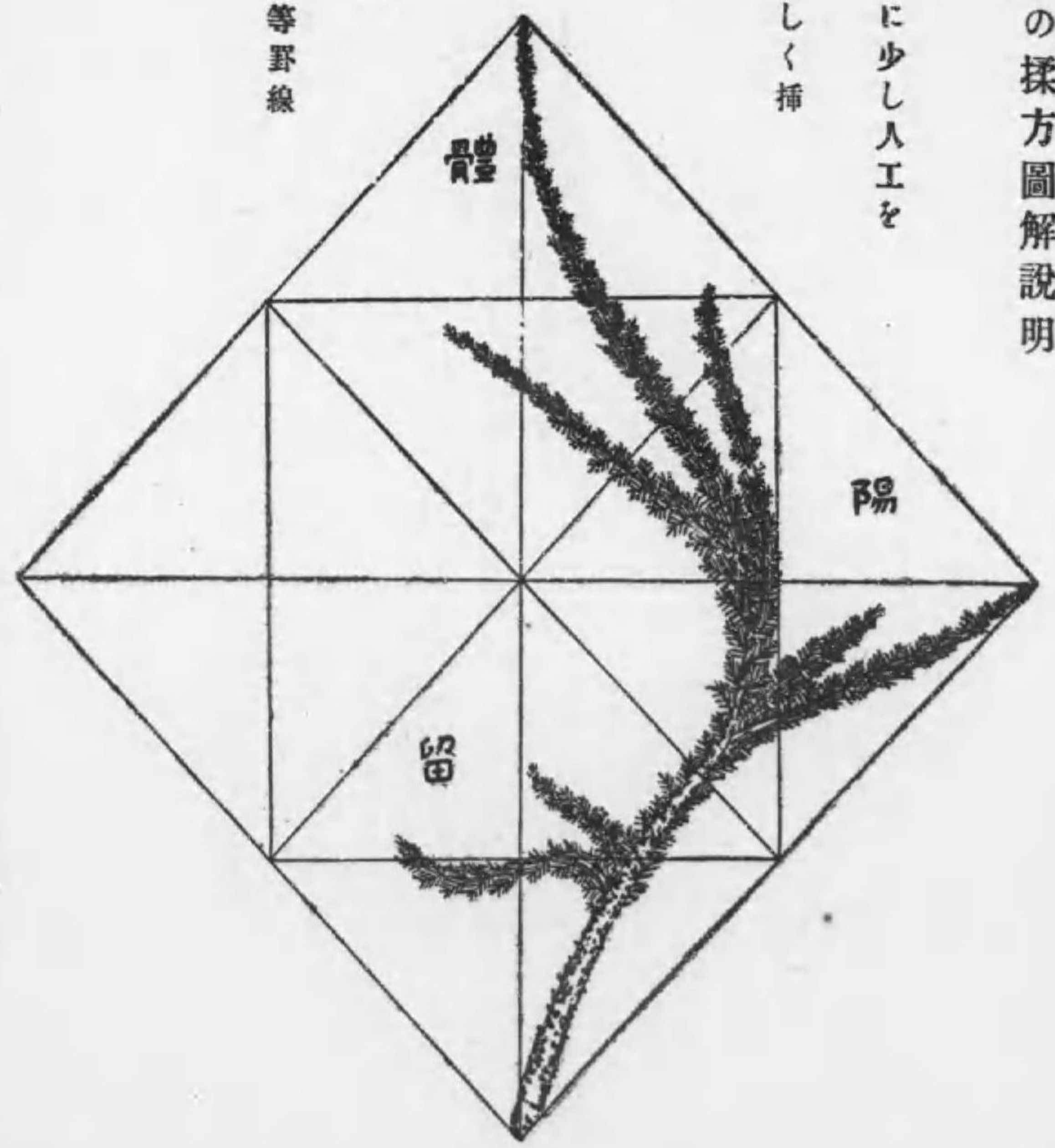
眞花型三才の揉方圖解説明

此の花形は曲少き故初心者には意味通じ難きも人工の加へ難き草木を此の花形に挿上るべし体用留の格の出し方等野線に注意されたし



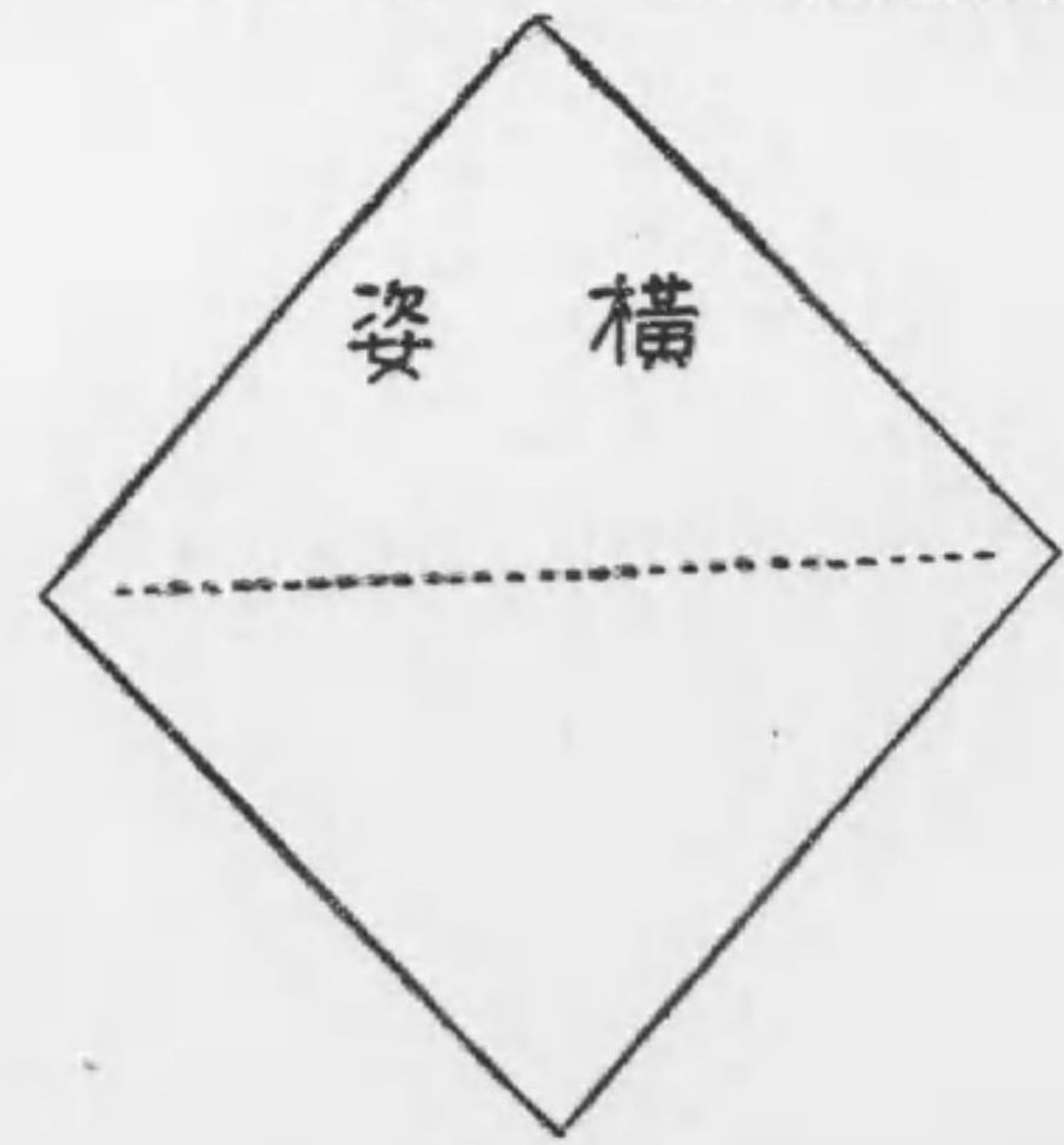
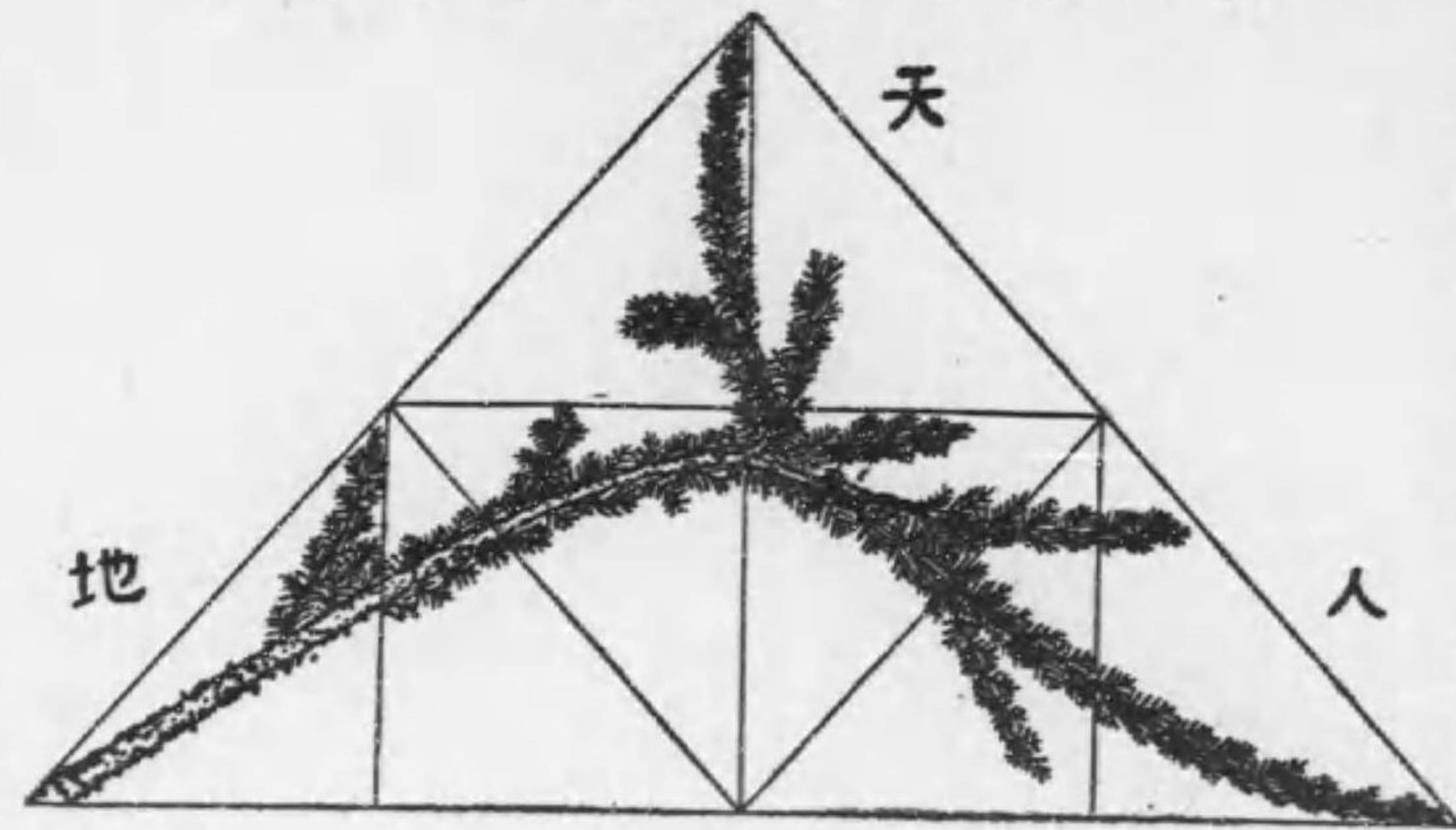
行の花型三才の揉方圖解説明

此の花型草木自然の枝ふりに少し人工を加へて花器の中央に行儀正しく挿す故に初心者にも解し易し亦社會にも廣く流用す故に此花型は一般師範家にも散花として挿事多し枝の揉方格の出し方等野線に注意されたし



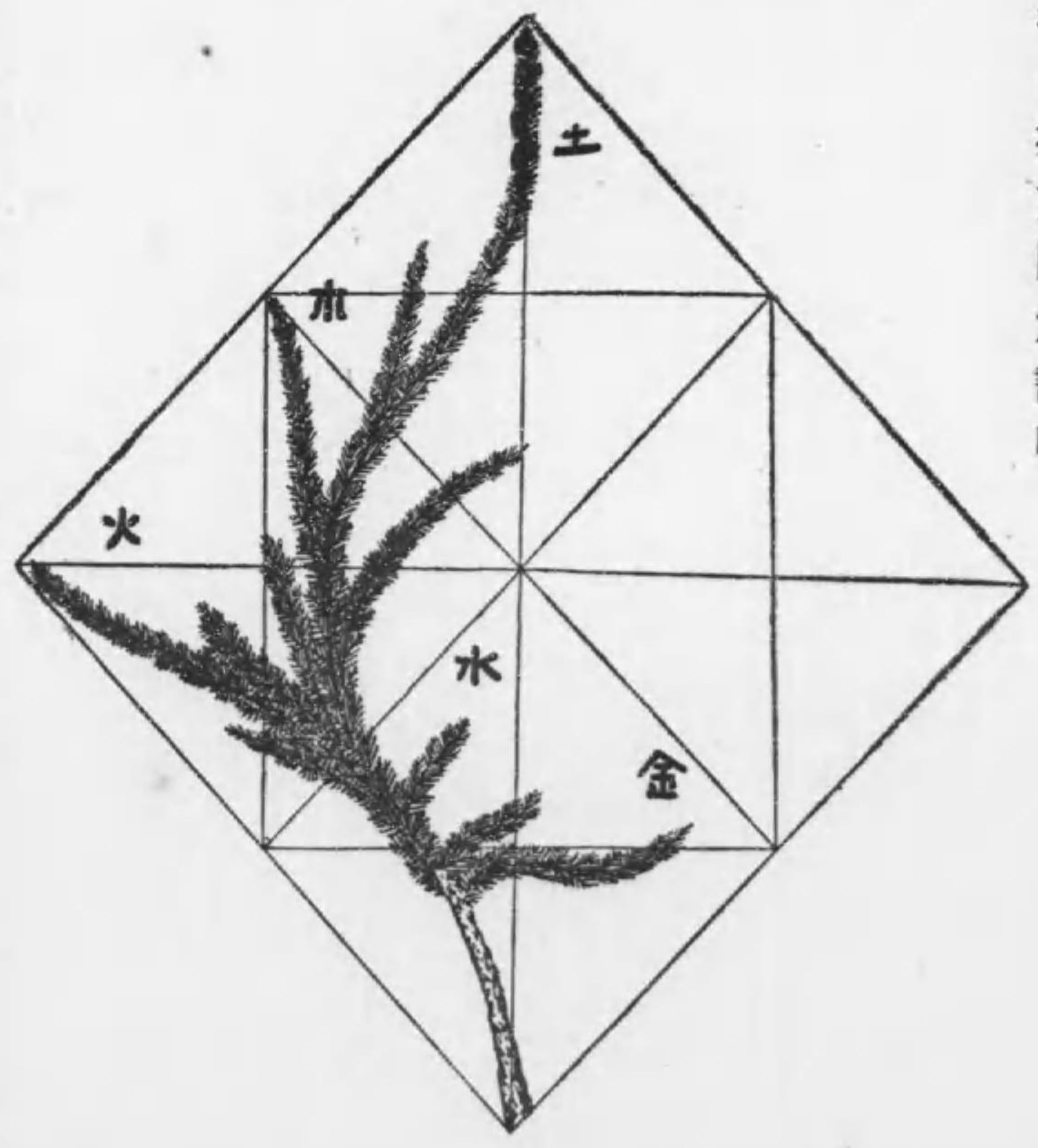
三才の横姿揉方圖解説明

此の花形は床柱の掛花か三重切の上口か又は二重切の下口廣口等の株分に多く用ふ者にして人枝の格先は地枝の根元より下りたるは悪し天枝は圖の如く花形の中央に位置し掛花三重切等へ挿時は圖の野線に注意されし



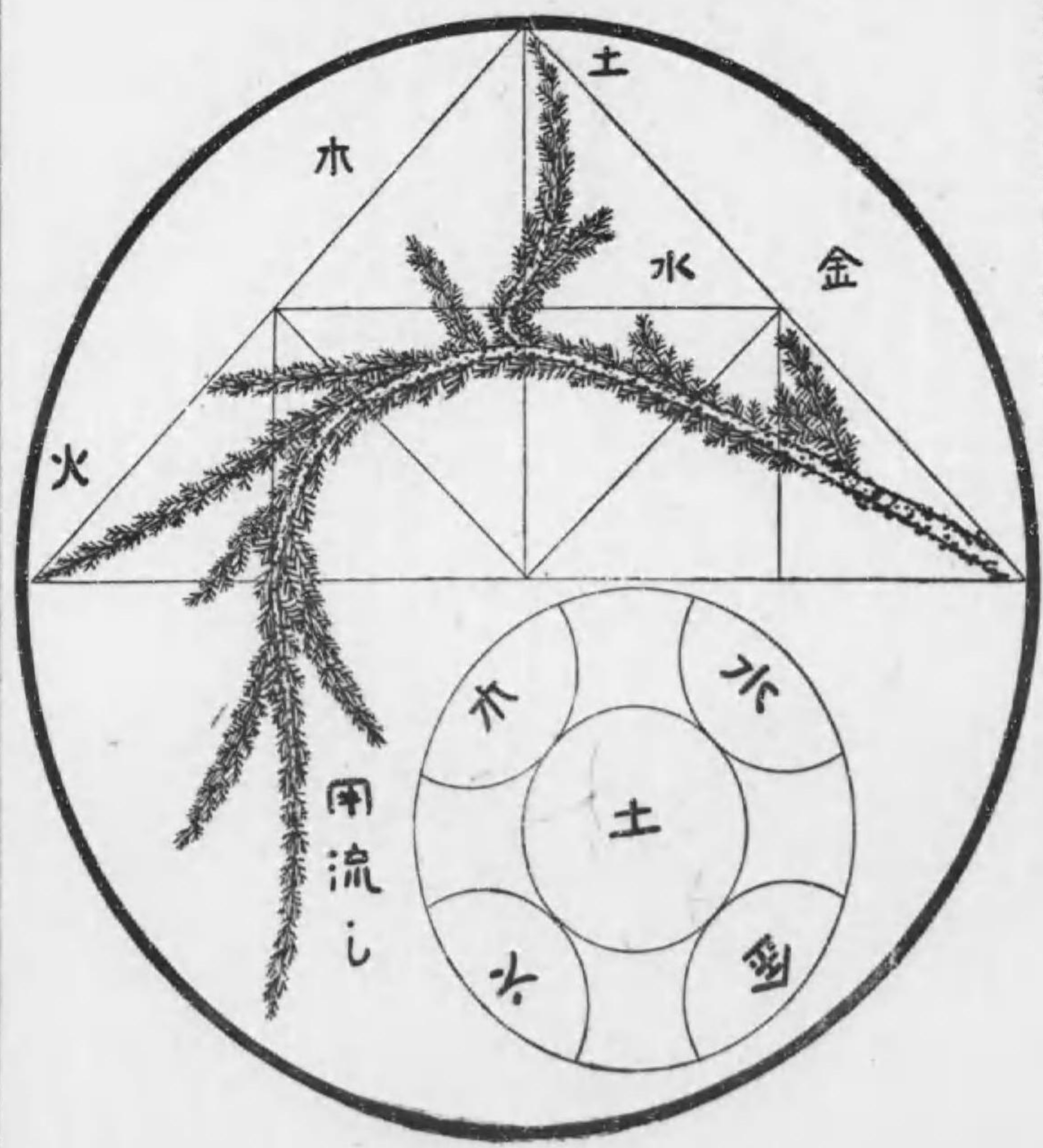
行の花型五行の揉方圖解説明

此の花形は行の三才と説明は同様なれども枝の格五行に出し前に平面より見たる圖の土火木金水の説明の如く是れは斜面より見たる圖にして格の出し方等野線に注意されし



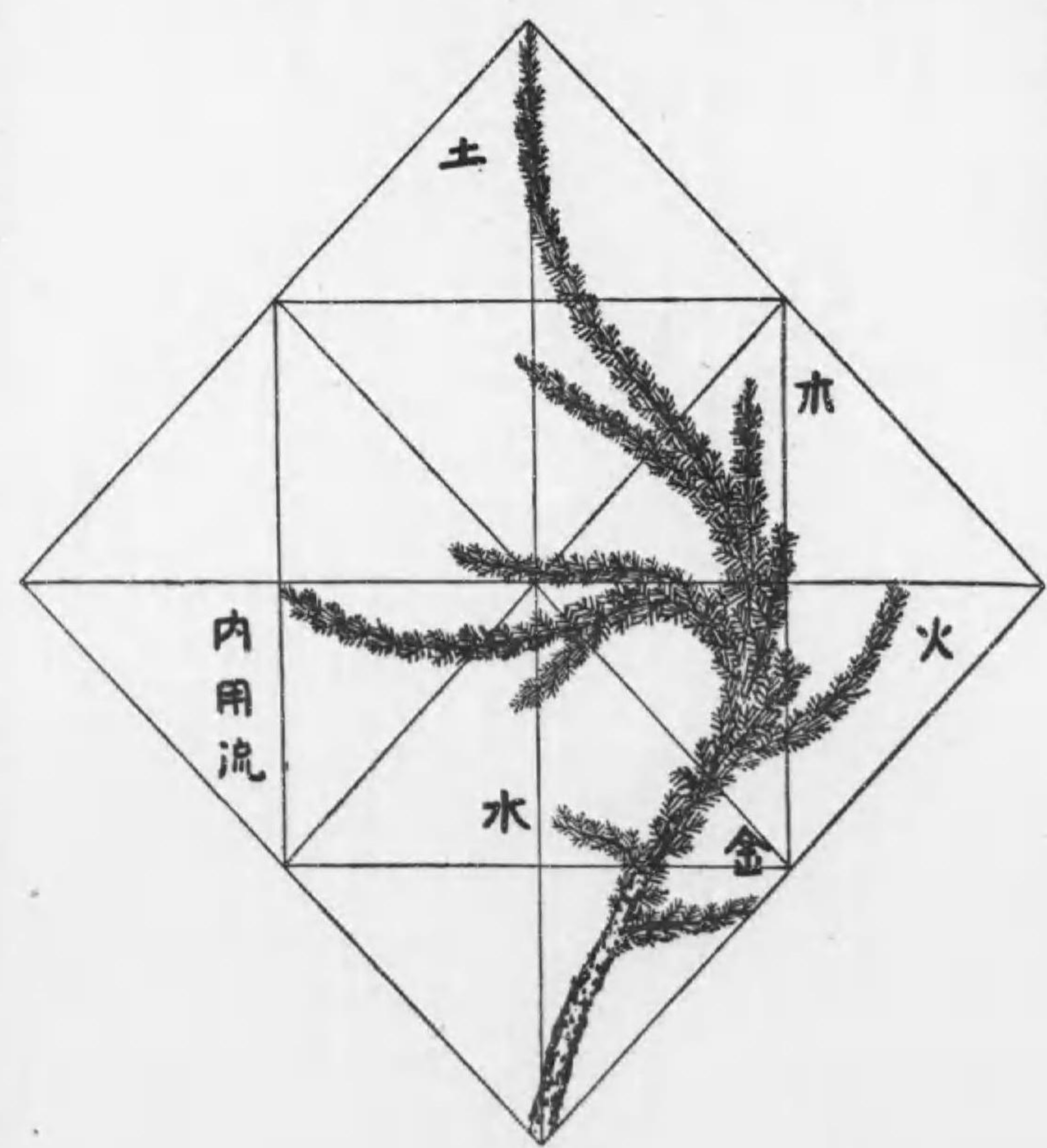
五行の横姿揉方圖解説明

此の花形の使用は前と同
しなれども曲枝にて陽流
しと名稱しツル物等にて
掛花亦是三重五重切上口
等に挿べし土火木金水の
格の出し方は斜面より見
たる圖と平面より見たる
圖に注意されたし



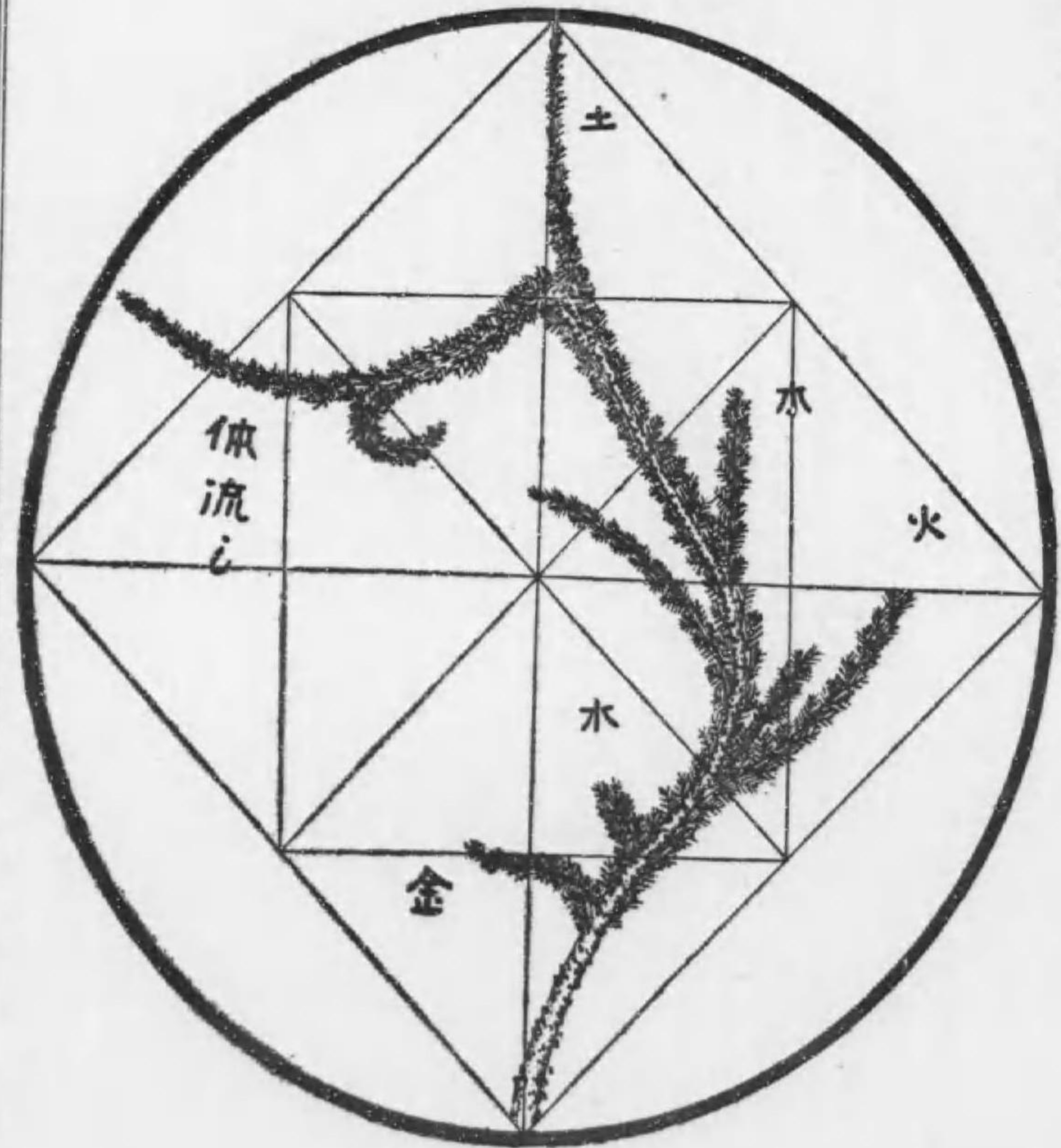
草の花形七曲の揉方圖解説明

此花形は草木自然の枝ぶ
りに少し人工を加へ柳梅
等にて曲枝多き物自然美
を現し挿物なりなれども
散花として雜草木にて當
流花型の七曲を挿時は斜
面より見たる圖と野線に
注意されたし是の花形は
七曲の内の一にして内陽
流しと名稱し次に六曲の
枝葉揉方説明す



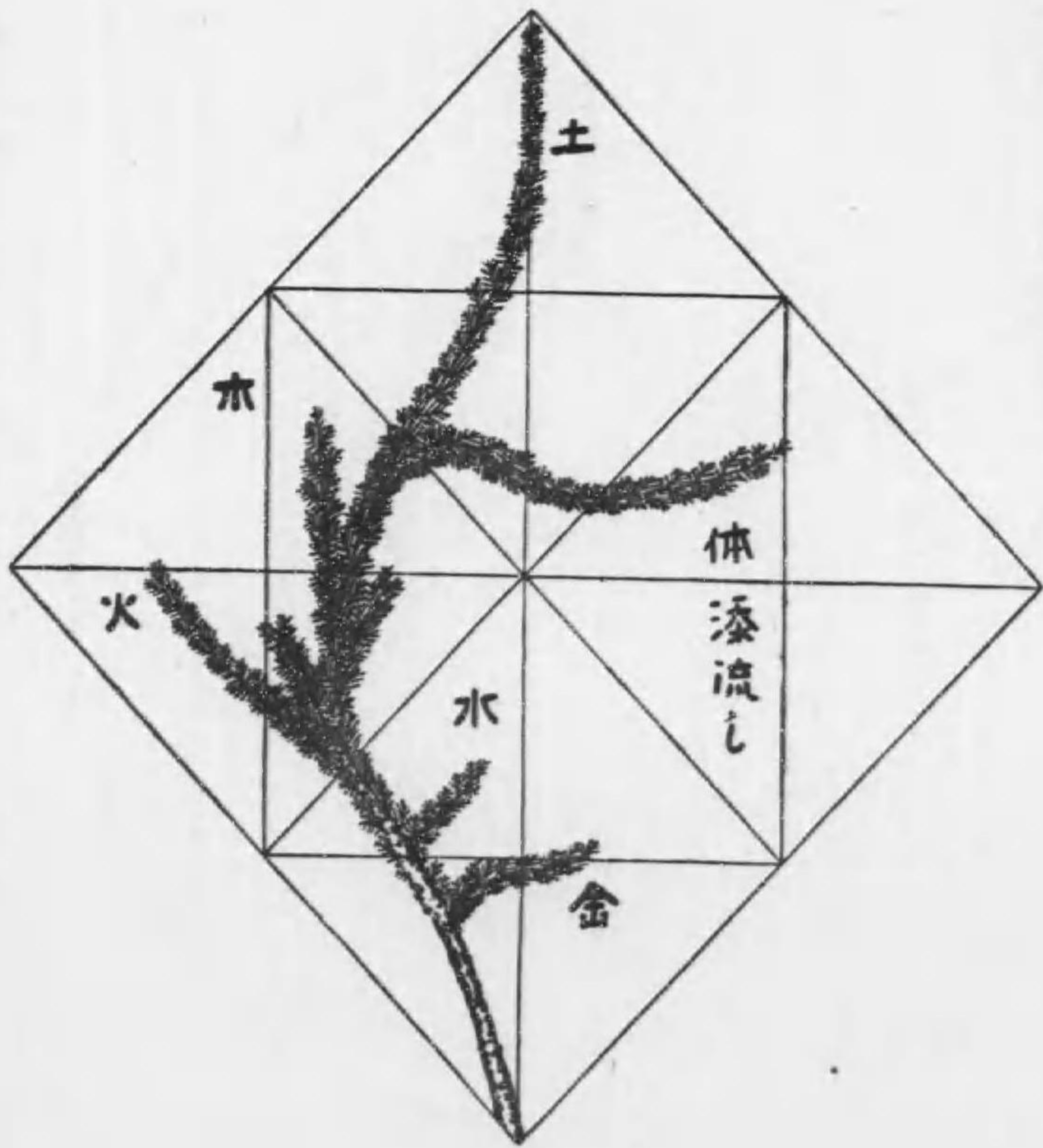
七曲の内体流し圖解説明

此の挿方は前の内陽流し
と説明同様挿上る時斜面
より見たる圖と枝の格先
配置等罫線に注意された
し



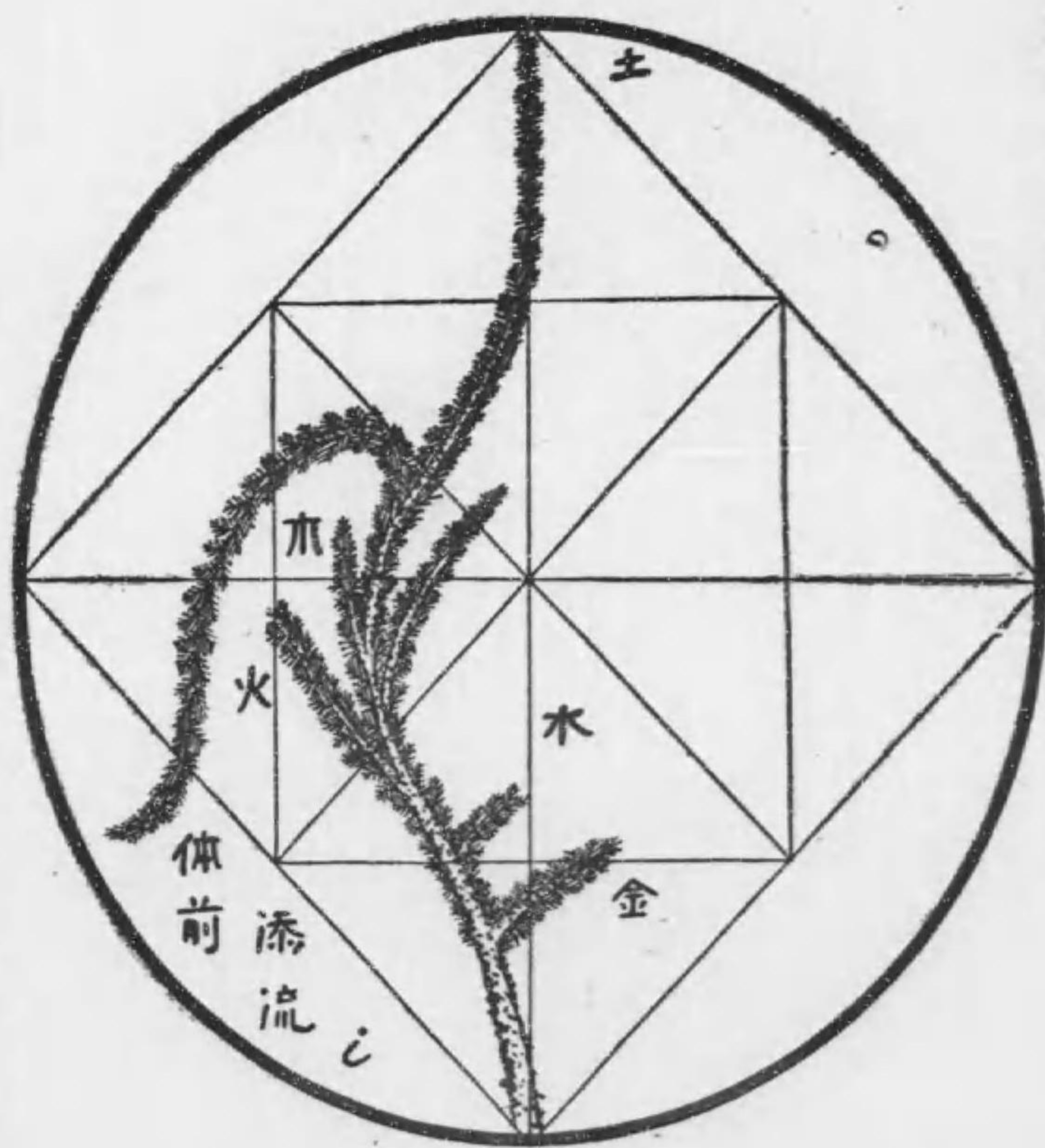
七曲の内体添流し圖解説明

前と同じ



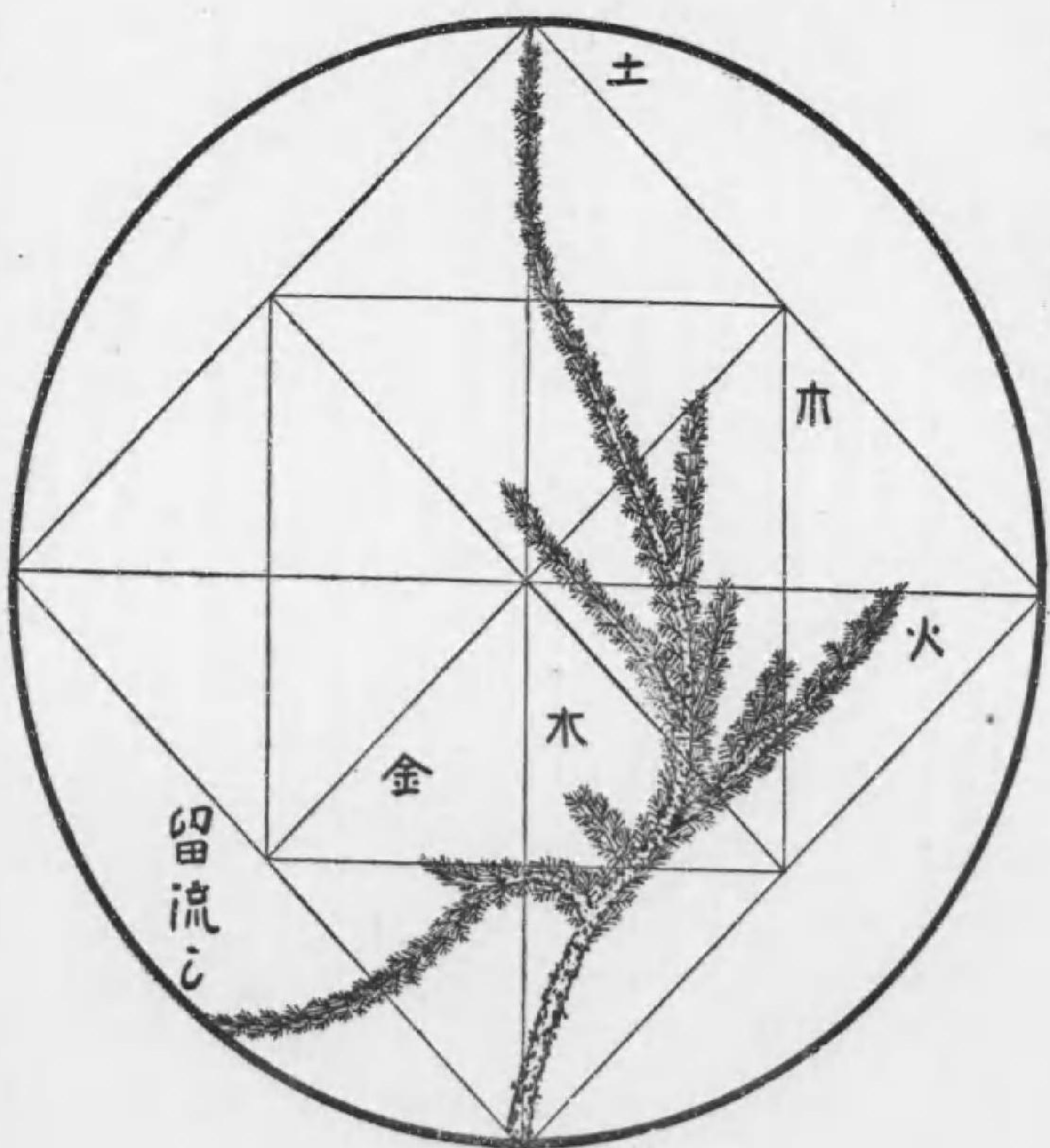
七曲の内体前添流し圖解説明

前と同じ



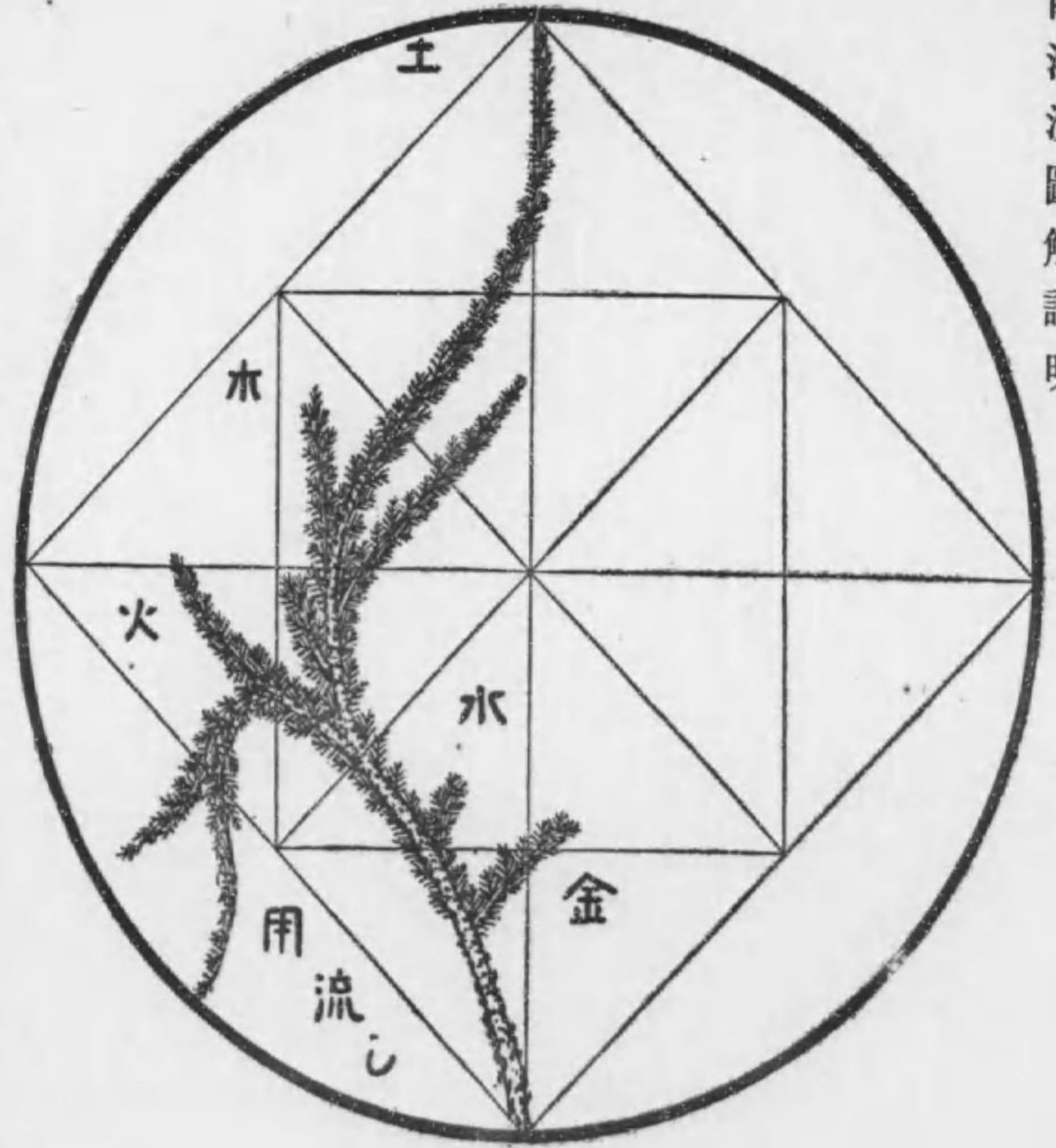
七曲の内留添流し圖解説明

前と同じ



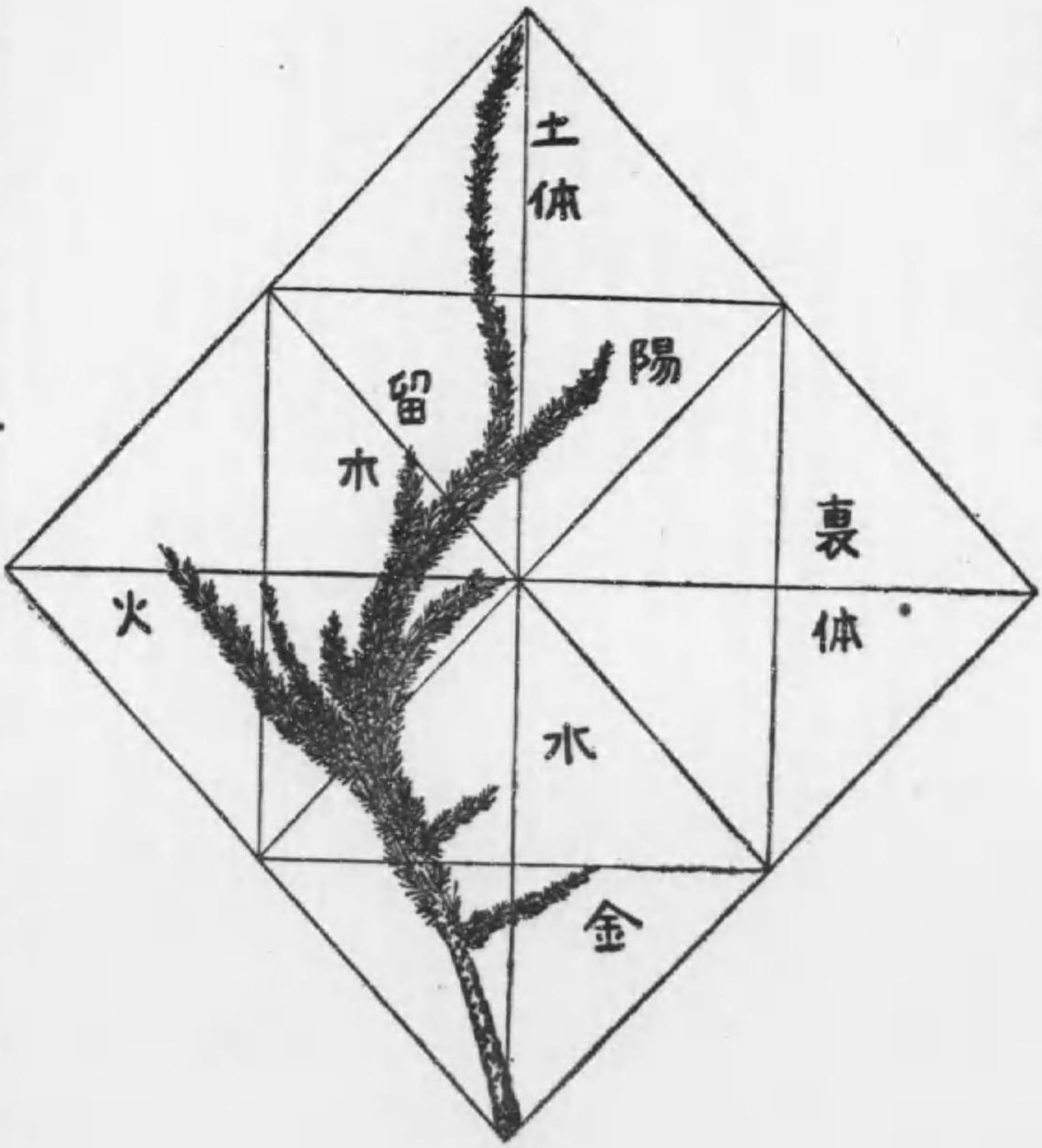
七曲の内陽添流圖解説明

前と同じ



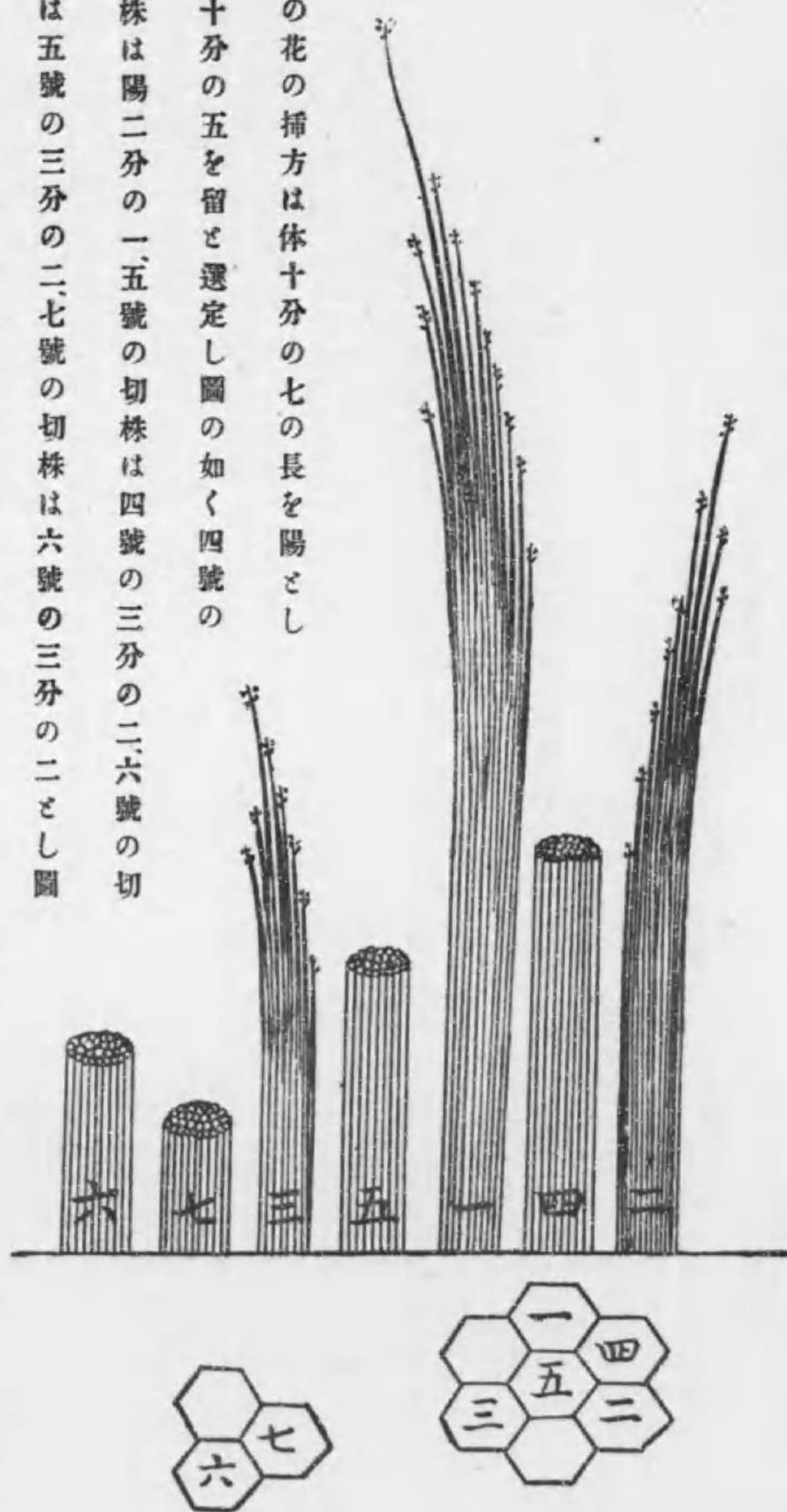
七曲の内裏体圖解説明

前と同じ



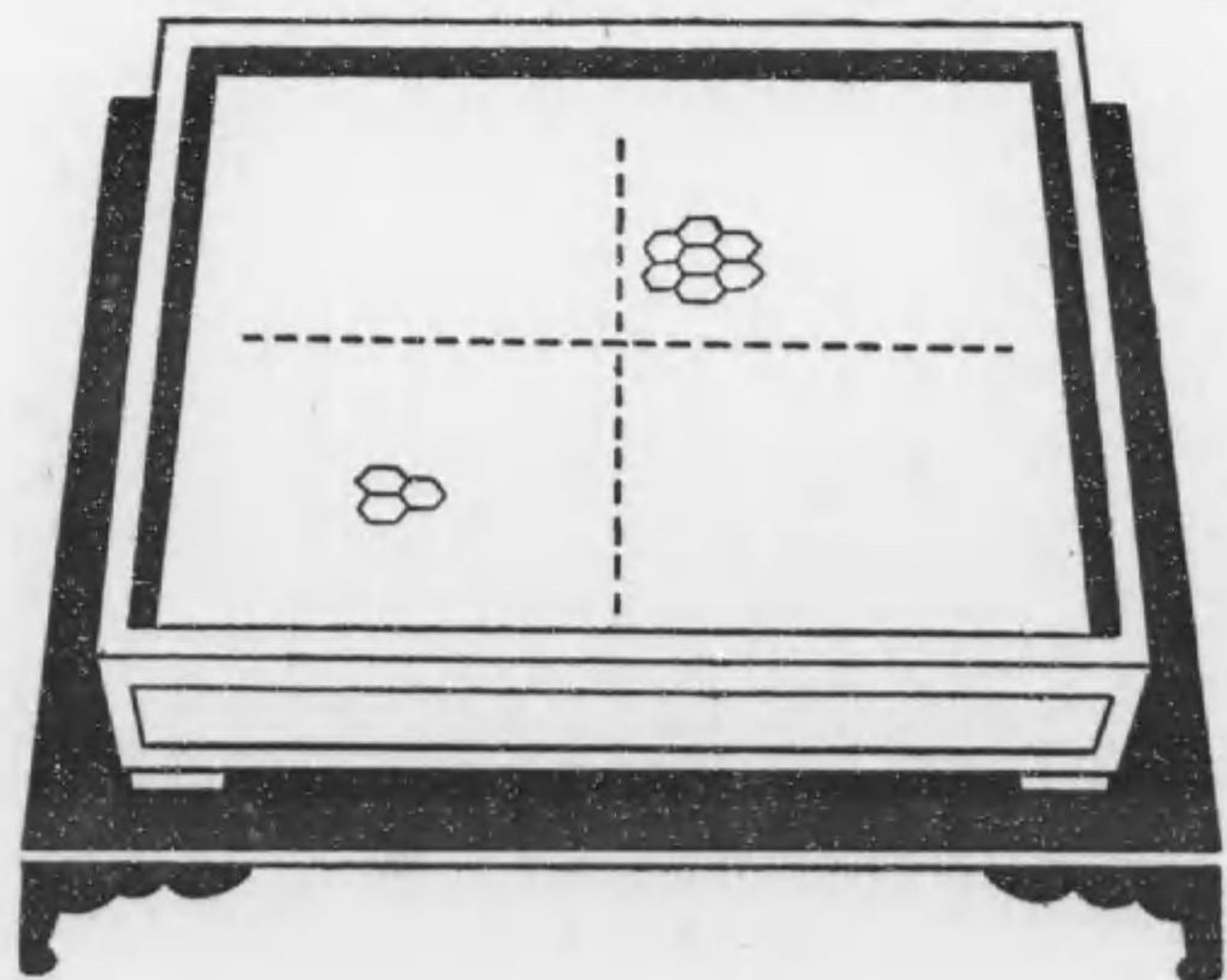
木賊九十九種類挿方圖解説明

此の花の挿方は体十分の七の長を陽とし
 体十分の五を留と選定し圖の如く四號の
 切株は陽二分の一五號の切株は四號の三分の二六號の切
 株は五號の三分の二七號の切株は六號の三分の二とし圖
 の如き番號へ挿時は客位の花形となる主位の花形此の圖の反對に準す細密なる事は次回口傳
 集の卷に説明す



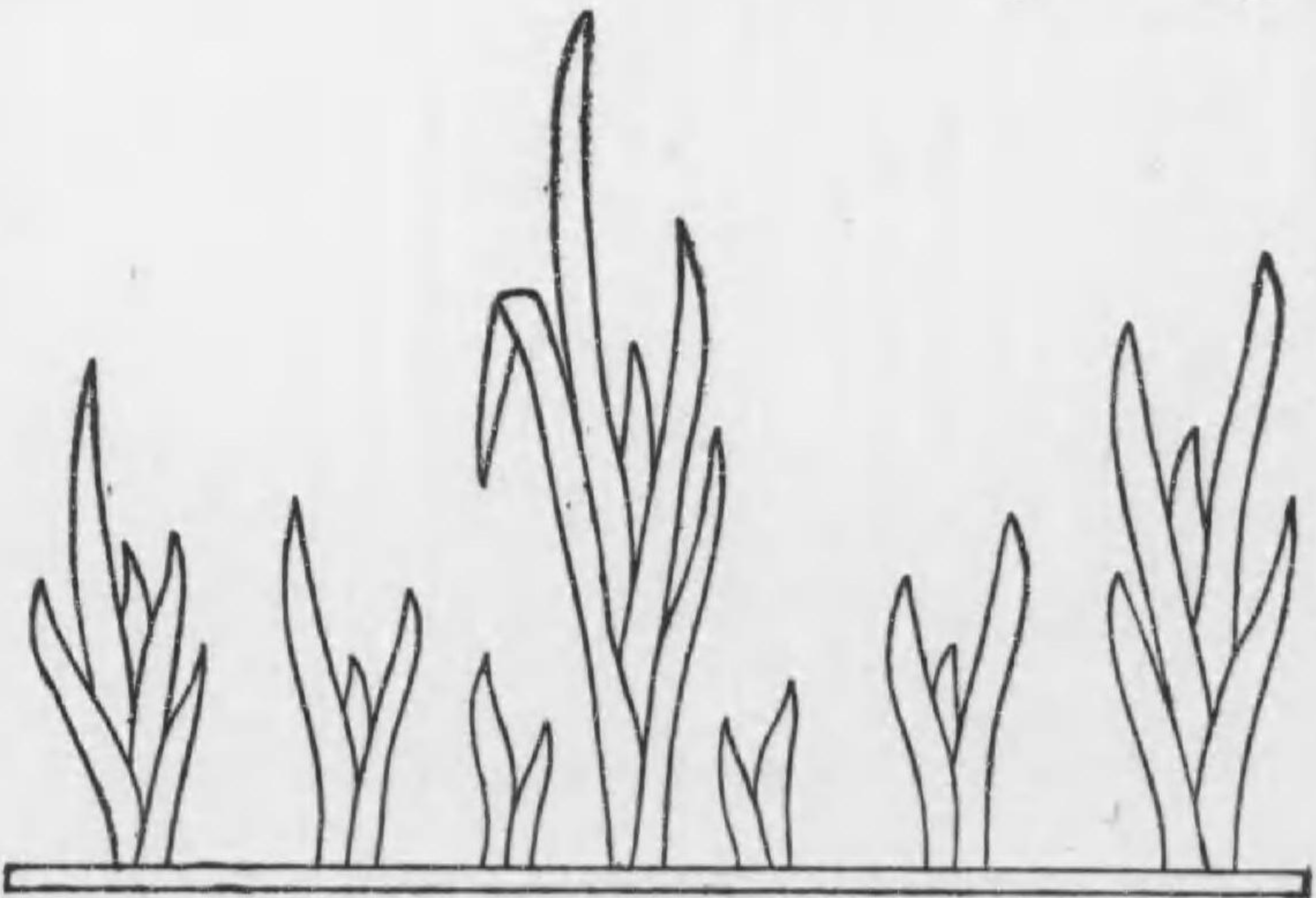
廣口水盤等の挿方圖解説明

花の位置は點線の所へ花を置事忌むなり即
 ち土に死活あり水に死活あり陸草木を挿時
 は點線を活の土と心得水草を挿時は點線を
 活の水と心得活土活水に草木成長する事少
 し故に活花として挿す時は圖解に注意され
 たし之は客位の置方なれども主位は之れの
 反對に準す



燕子花葉組圖解說明

かきつばたは水草にて花より葉高し、いちは
つ花菖蒲は葉組同用なれども陸草にて葉よ
り花高し同種類の長葉物にて六月迄に開花
の分は組葉圖の如く六月以後に開花の分は
組葉の中葉高し亦葉組順次圖解に注意され
たし



出船入船扱方圖解說明



舟の使用季節は籠と同様にて
四月より十月迄が本意とす床
に向つて(へさき)の明口へ向き
たるを出船にして(へさき)の床
柱の方へ向いたるを入船と唱
へ此の圖の挿方は(どまり)舟と
名稱し錨を水中へ降したる圖
にして舟の向側へ枝を出し舟
の手前へ枝の下りたる事舟を
見切るため懸し舟にて枝の見
切は差支なし挿上たる圖に注
意されたし

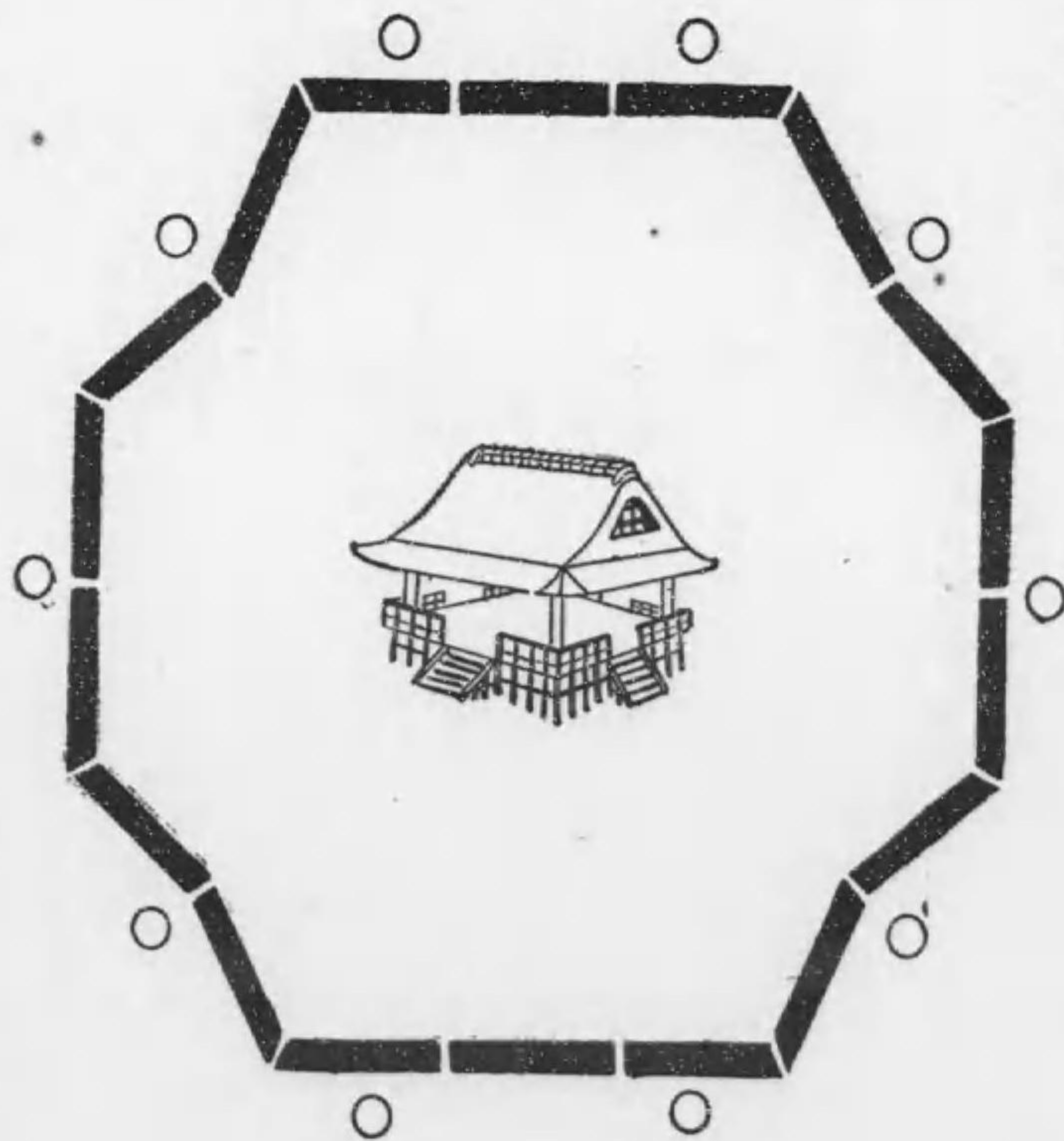
帆花 鱸花 舟扱方 圖解説明



此の挿方は帆花にて(なぎさ)往來の舟と名稱す沖往來の舟は挿方同様なれども草花にて(こまかき)花葉の物を挿上て少し高く釣べし鱸花の挿方は横姿の陽先舟の(ども)の方へ出し舟底迄下りたるを善とす舟底より下る時は逆鱸となり舟扱ひ難し置舟の挿方は帆花鱸花を挿し鱸花は帆花の二分の一の姿を挿此圖は唐舟なれども扱方普通の舟と同じ總の一つの方を(へさき)二つの方(ども)と心得挿上るべし細密なる事は次回口傳集に説明す

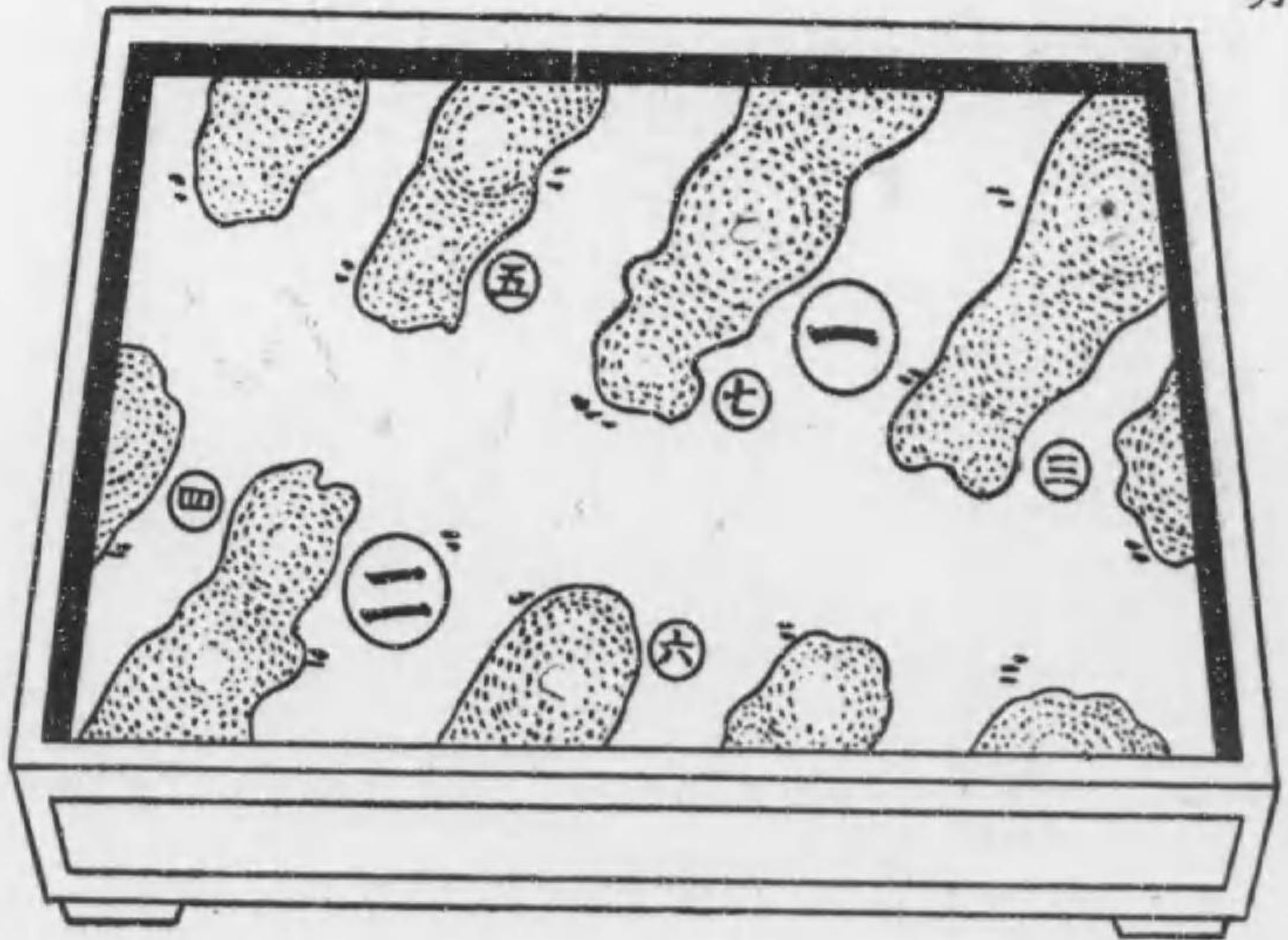
神社奉納飾付圖解説明

此の飾付は神社の神樂堂又は御輿堂へ獻花の時屏風一双半を以て鳥臺の形圖の如く作り其の外曲りへ花を配置して神社正面を一位として參拜人正面を二位左右を三四位と心得圖の如く配合し○印は花の置場鳥臺の飾方に注意されたし



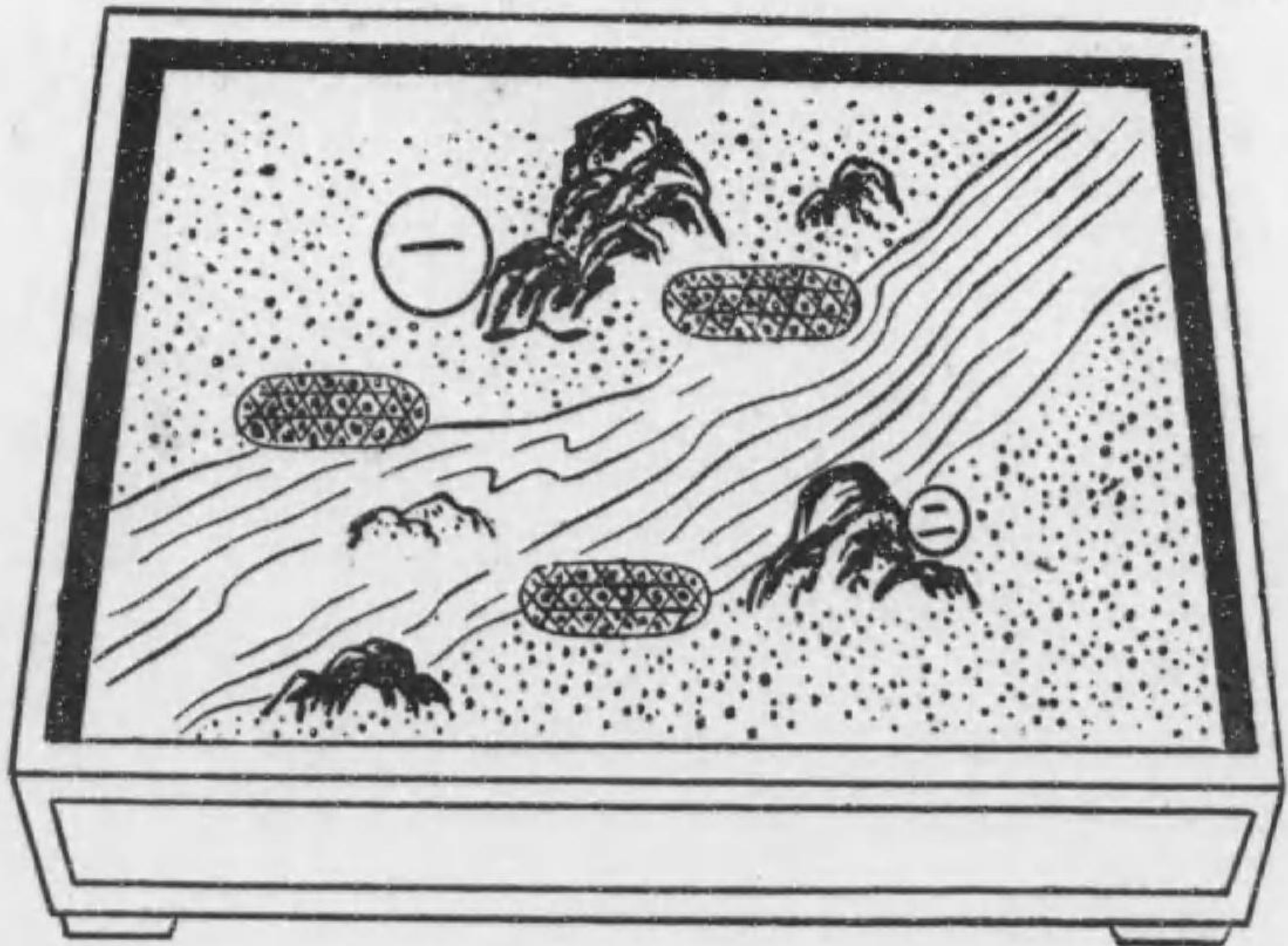
三洲八ッ橋挿方圖解説明

所在地は三河國岡崎市の百足川に有りしも現代絶てなし其地寺院に其形現し遊覽客多し流花として大廣口に黑白の小石にて百足川の形を取り圖の如き燕子花を大株小株取ませ七株芽吹葉十五六も出し八ッ橋の全景を現すべし亦是景花として軸と花器を連想し燕子花の二三輪を挿事もあり川の取方圖に注意されたし花形等は次回口傳集に細密なる説明あり



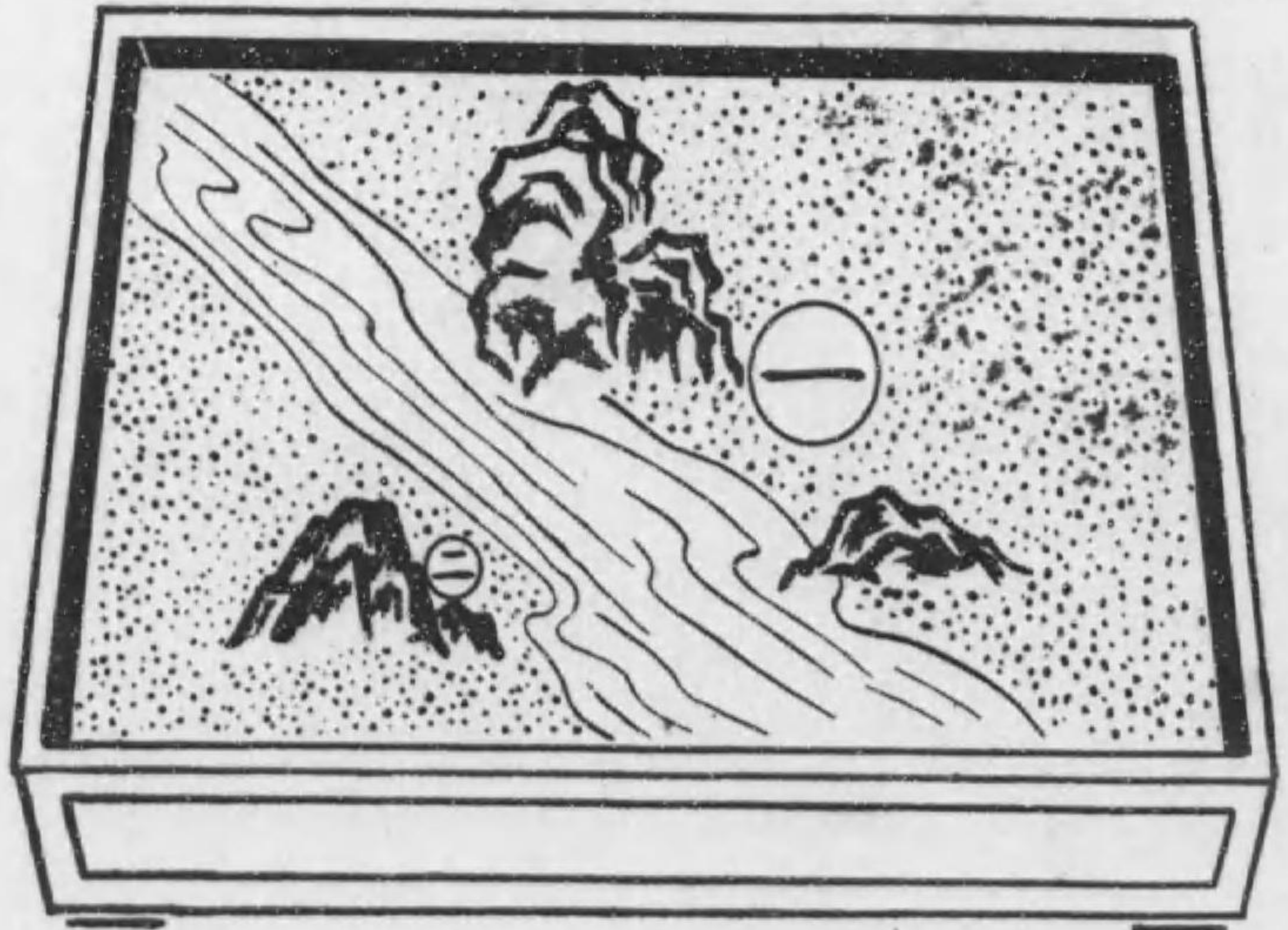
嵐山櫻散り景色挿方圖解説明

流花として大廣口に大小の石亦は小砂應合蛇籠を以て嵐山の川の景を取り櫻の散り残りの大木を活け横姿の水に望む所を挿し亦は掛花に葉櫻を挿し下の水盤に石を應合花葉を散らし嵐山散景色の氣分を現すもよじ石砂の用方花の挿方等注意されたし
所在地京都府葛野郡有名なる嵯峨御所の南に有り



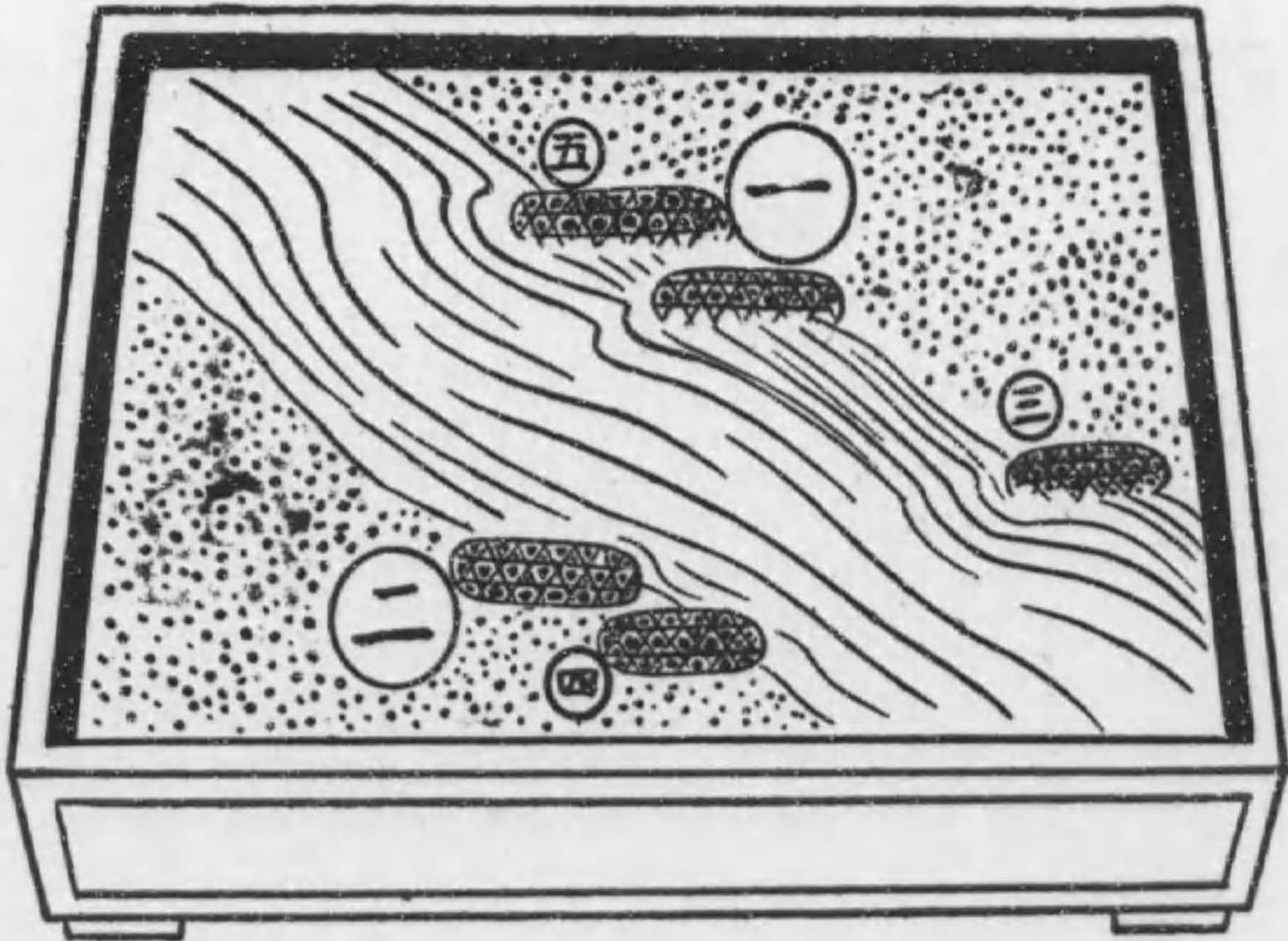
龍田川楓の景色圖解説明

所在地大和國生駒郡龍田町龍田神社の西南にあり、流花として大廣口に石砂を以て龍田川の景色を取り、楓挿方は櫻と同じ亦は軸に龍田川の氣分を現し小の水盤に紅葉を挿上るもよし川の取方石の置方下の圖に注意されたし



山吹玉川の景色挿方圖解説明

所在地山城國井手村の井手にあり、流花としては大廣口に蛇籠小砂を以て玉川の景色を取り、圖の如く山吹三株五株も挿し亦は玉川の歌の色紙を掛山吹の投入花も簡易なるべし



紀伊高野の玉川説明

古歌

忘れてもくみやしつらん旅人の

高野の奥の玉川の水

此歌の軸に水盤へ杉の自然美を挿上るべし

傳説

此の山中橋多く自生して其毒此の川に流出す故に旅人
この水を吞まざる注意の歌なりといふ

攝津きぬたの玉川説明

所在地攝津三島郡三島江にあり

古歌

松風の音だに秋はさみしきに

衣うつなり玉川のさと

此所卯の花の名所なり川邊に卯の花の咲く景色挿てよし
亦是月の軸に芦を挿ても宜し

陸奥野田の千鳥の玉川説明

古歌

夕されは控風こして陸奥の

野田の玉川千鳥なくなり

此所千鳥の名所にして葭の生茂りたる所なり流花とし
ては川の取方山吹と同じ葭の四五本も挿し外に芽出し
二三應合玉川の景色現すもよし

近江野路の玉川説明

古歌

あすもこん野路の玉川萩越て

立ぬる浪に月やどりける

此所萩の名所にして花の挿方山吹と同じ
月の水に映る氣分軸に現し適當の花器に萩を挿上るも
よし

武蔵調布の多摩川説明

古歌

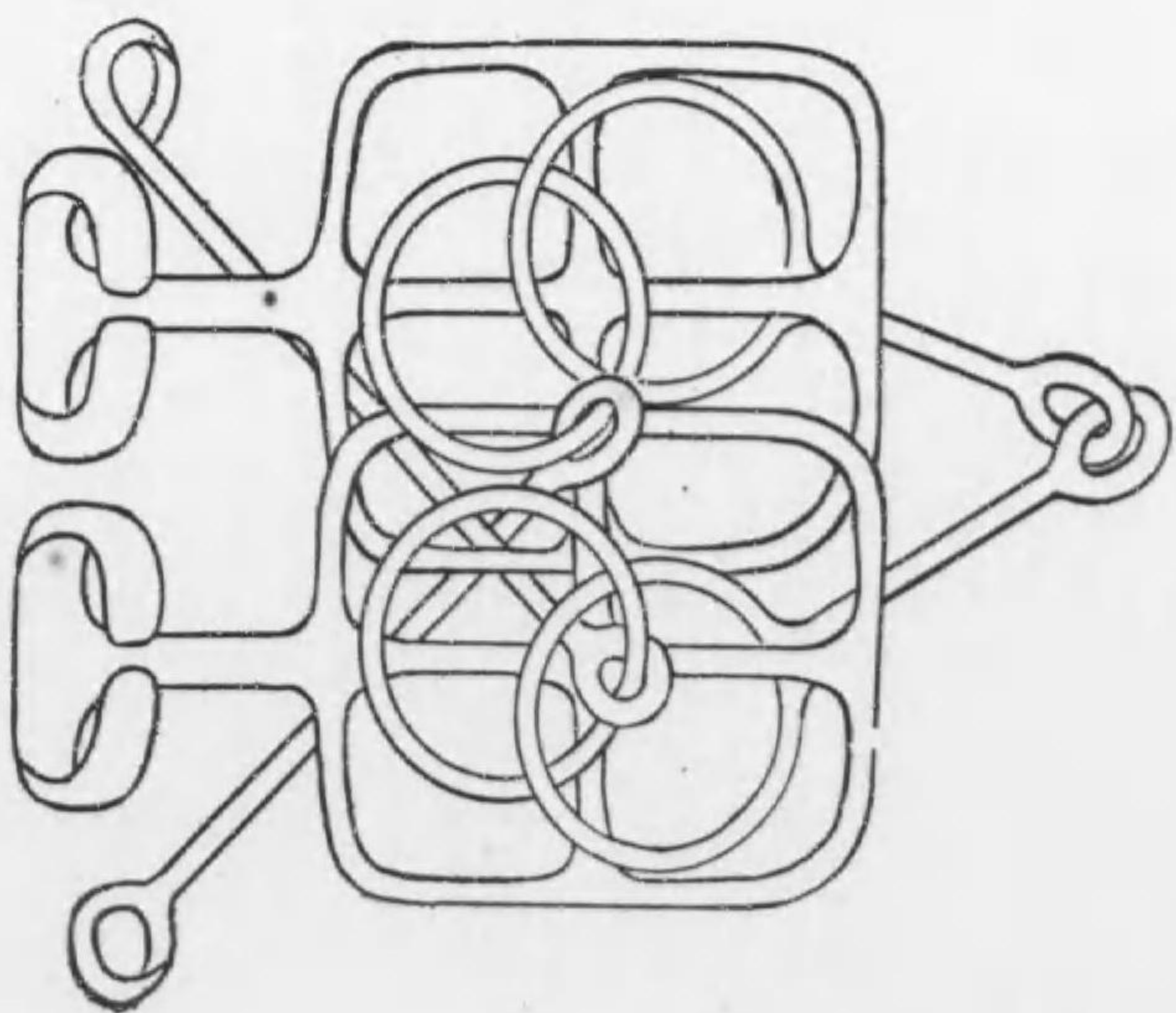
調布やさらす垣根のあさ露を

つらぬきとめぬ玉川の里

歌意を推察するに古へ朝廷または將軍家に納むる布を
さらす場所なると思ふ故に川水の清淨なる事を詠める
ものなり流花としては手杵の二重切に上口へ小しだれ
の柳を挿し下に春咲の水仙二三本應合へし六つの玉川
に就て細密なる事は次回口傳集に説明す
當今日比谷より多摩川行の電車便もあり

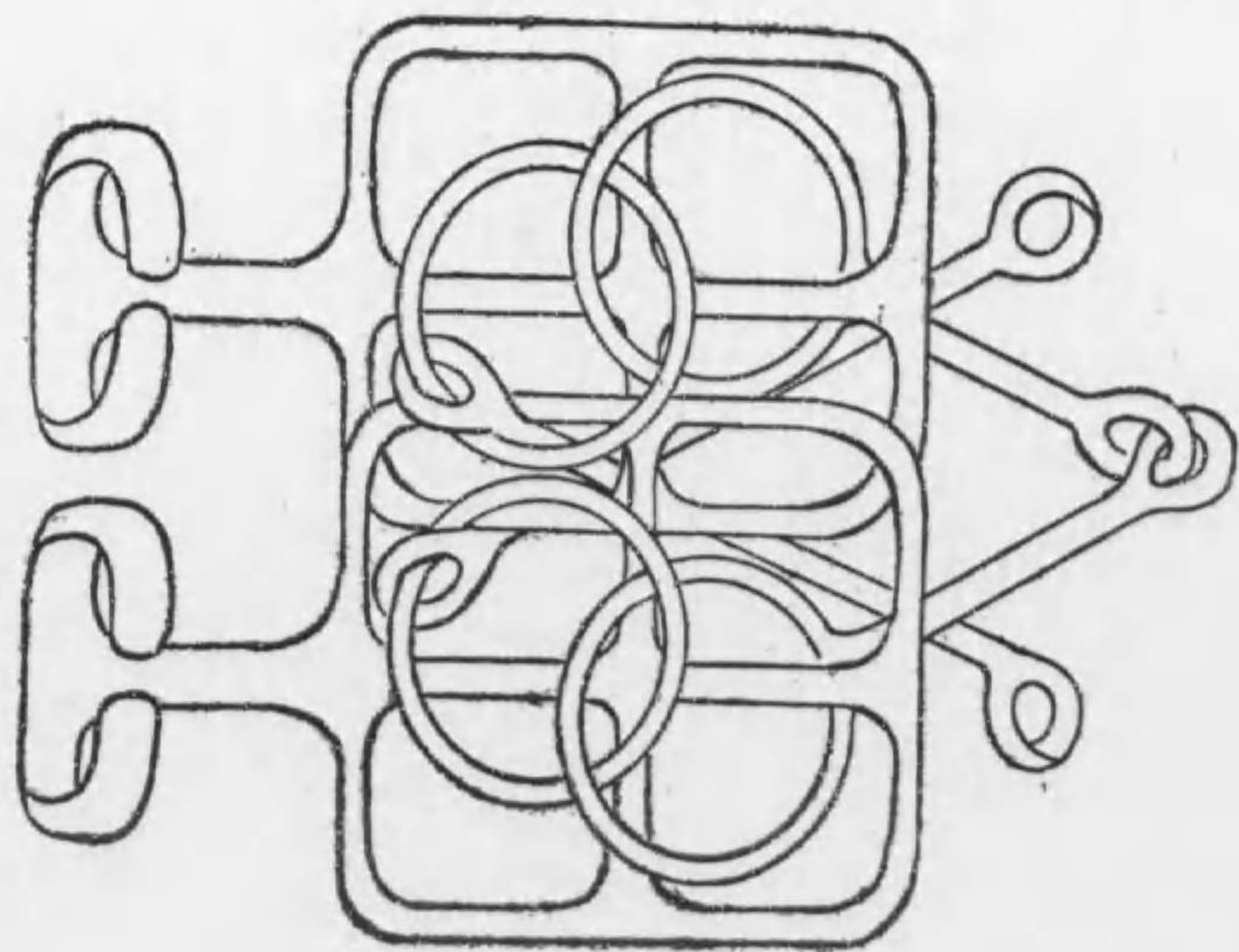
轡水鳥組方圖解説明

此組方は平面より見たる圖にして水鳥と
名稱す花器は馬だらいて燕子花の一二
輪最もよし轡組方に注意されたし



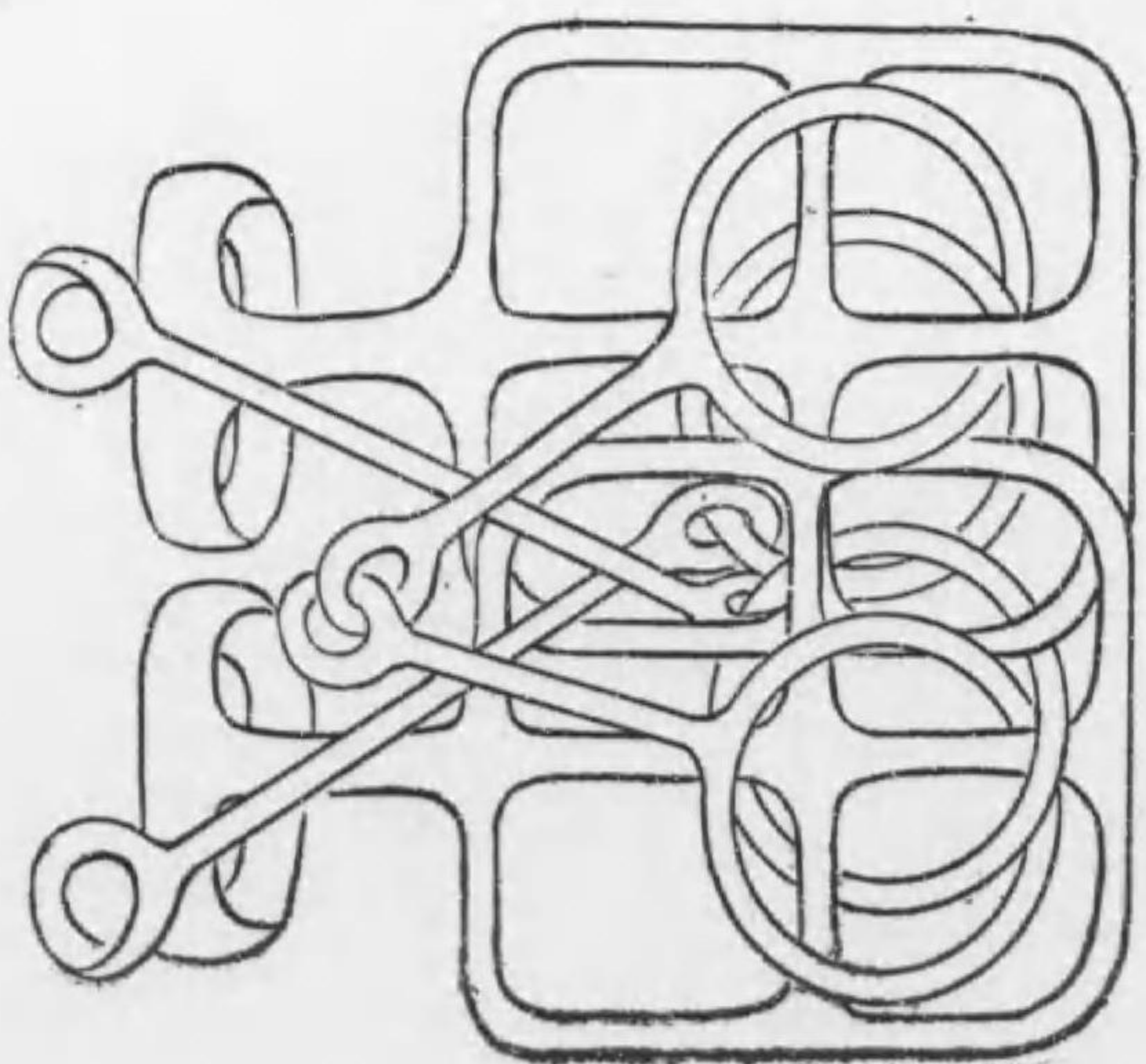
轡龜組方圖解説明

此組方は平面より見たる圖にして龜と名
稱す花器は掛物にしてつるもとき野菊を
應合殘秋の氣分を現し下へ長板の上に組
上げ枯れ松葉七八つも取合せ飾置くべし
細密なる事は次に口傳集に説明す



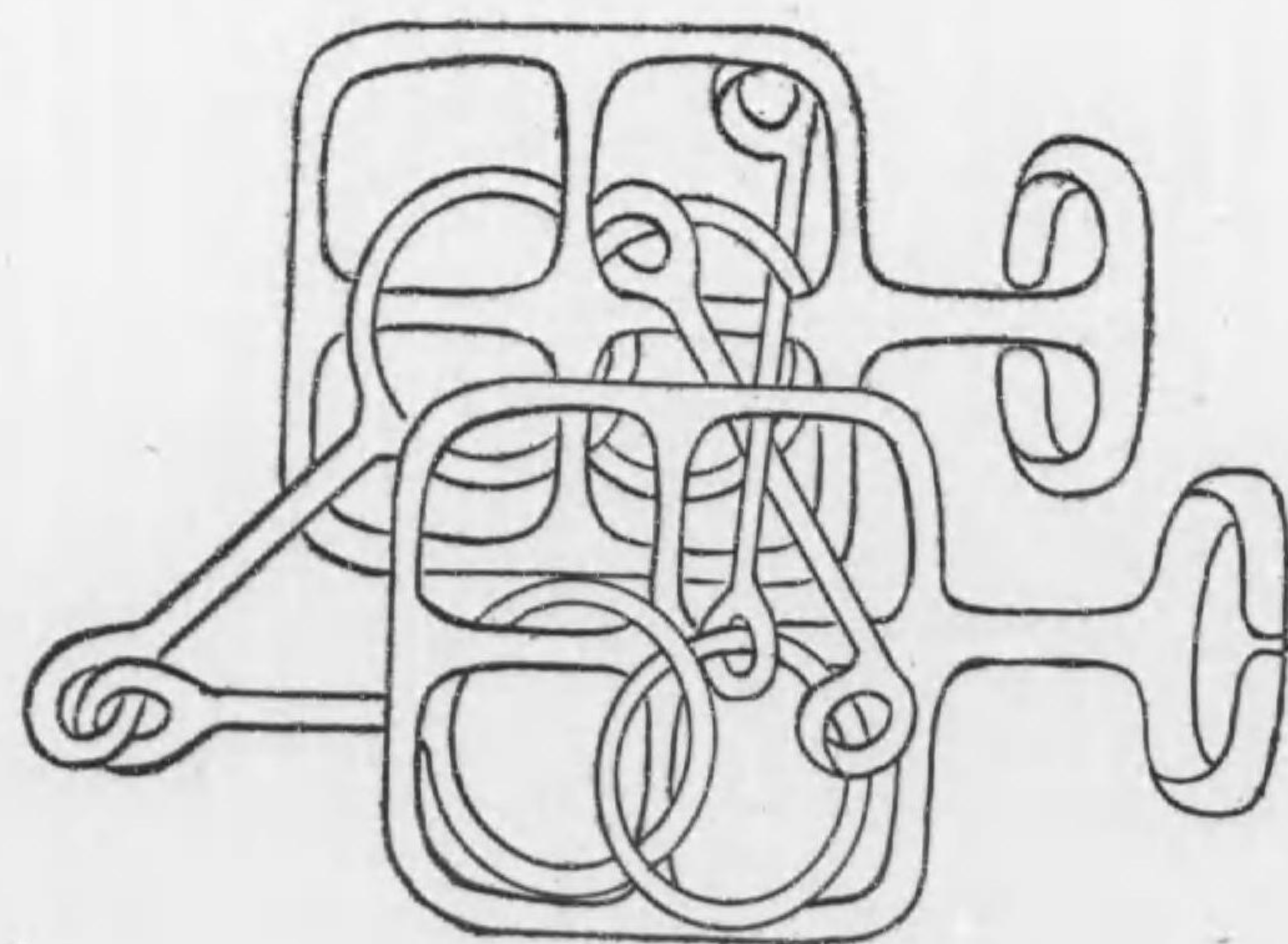
轡兔組方圖解説明

此組方は平面より見たる圖にして兔と名
稱す花器は白の角水盤にてすゞきの二三
本に野菊自然咲應合挿上る事最もよし轡
組方注意されたし



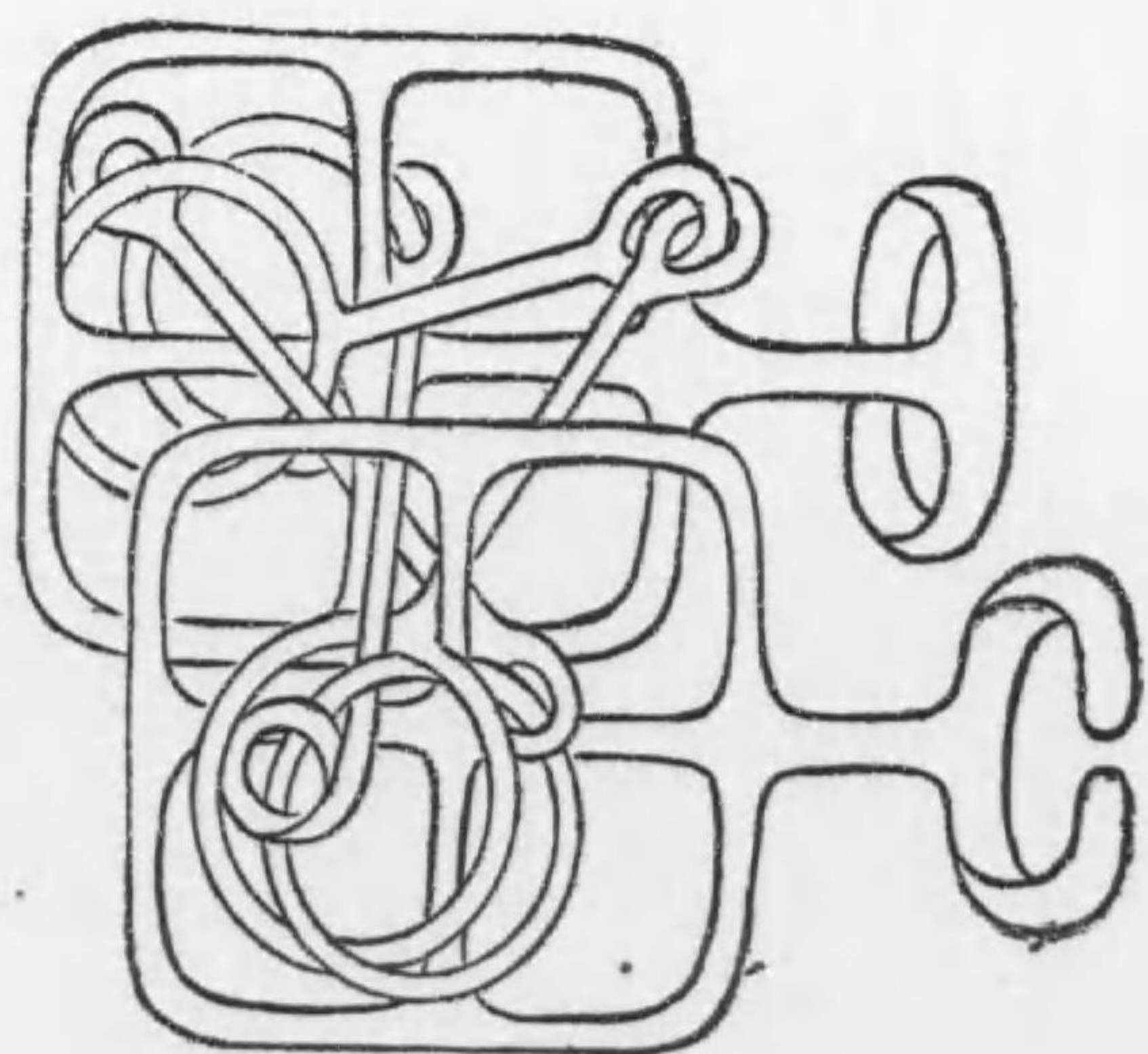
轡御所車組方圖解説明

此組方は斜面より見たる圖にして御所車
と名稱す花器は塗の小判馬だらいに山櫻
二本にて体用留と自然調ふたる枝最もよ
し轡組方に注意されたし



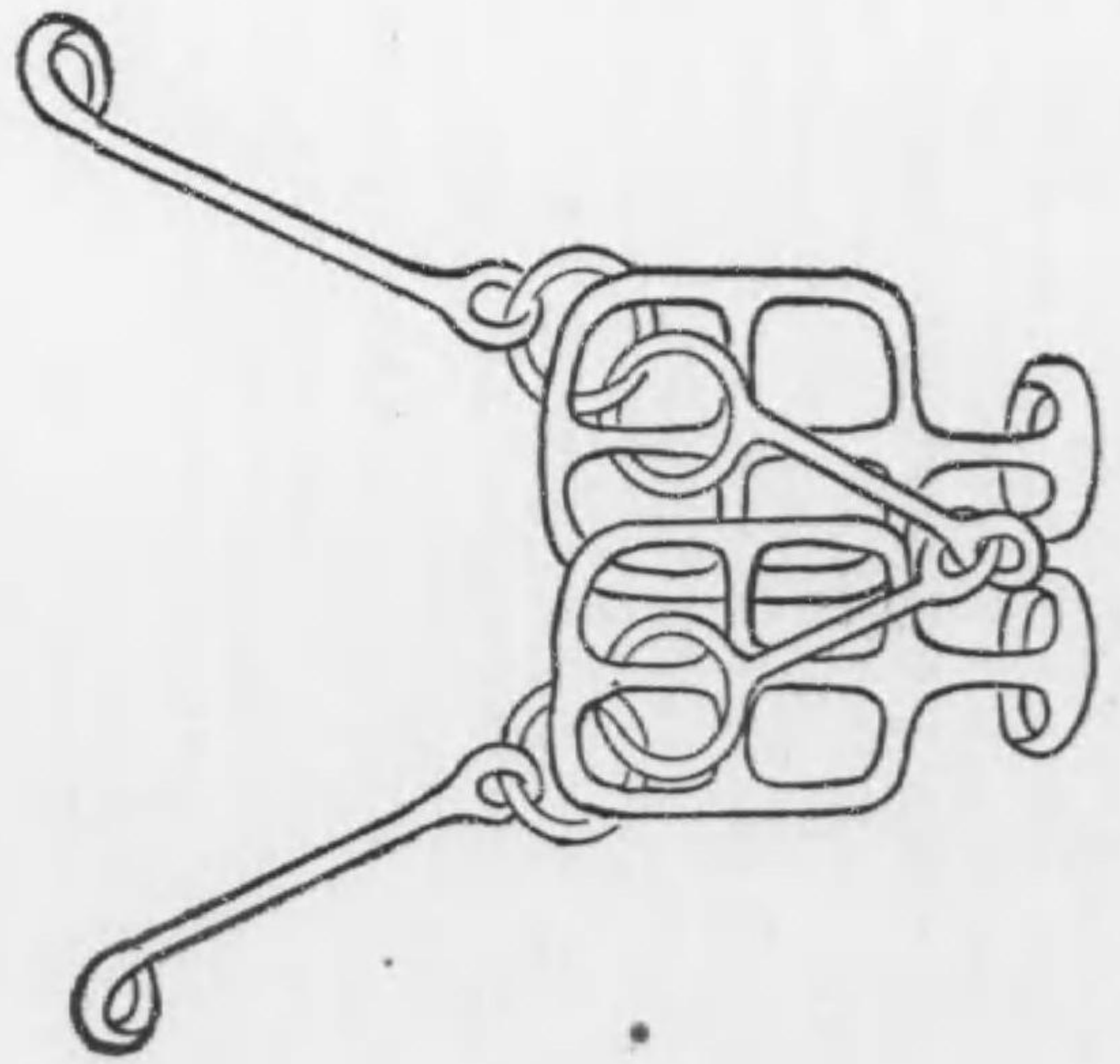
轡花車組方圖解説明

此組方は斜面より見たる圖にして花車と
名稱す花器は白の小判水盤にて大輪菊の
二本體用挿方最も適す轡組方に注意され
たし



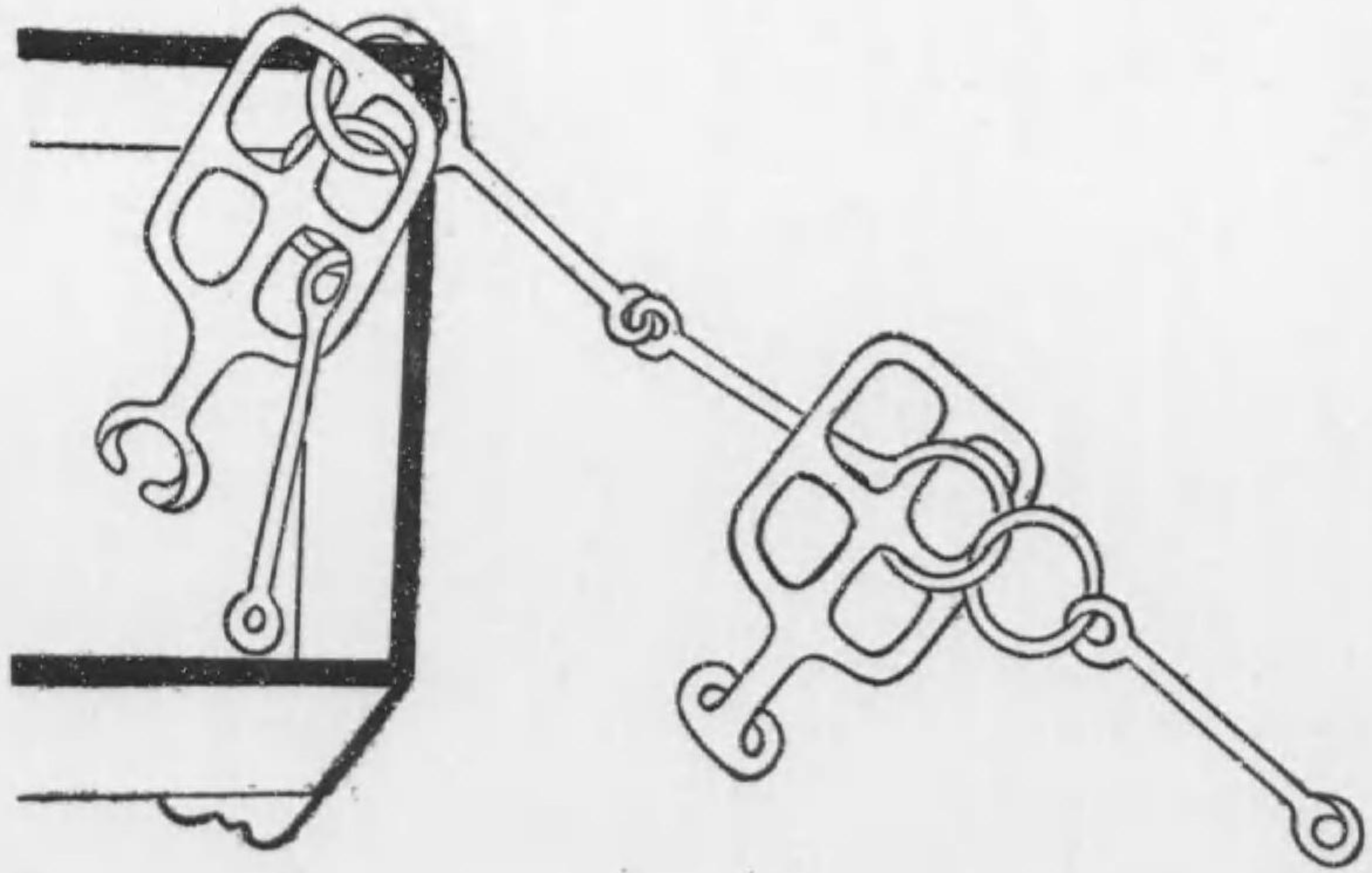
轡浮蛙組方圖解説明

此組方は平面より見たる圖にして浮蛙と
 名稱す花器は小判馬だらいて水あほい
 の二本にて體用挿方最もよし轡組方に注
 意されたし



掛轡取扱方圖解説明

此扱方は平面より見たる圖にて掛轡と名
 稱す花器の角へ圖の如く掛け木物二三本
 も挿入る事有り亦ひきて邪魔なれば花器
 の外へ出すも差支へなし



婚禮式客待合席床飾

此挿方は朝の海邊を見せたる景色花なれども趣好は吉兆を意味す

松は節操と堅固を主として國運の

長久をまた家系の永續を祝し軸物

海邊の日の出は日進を意味して國

運の發展と家業の進歩を祝す亦慶

事の花は季節によつて誰しも花の

撰定に困難なる時多し然れどもこ

の花は不斷にあるものなれば最も

便利の花なり



婚禮と諸式圖解説明

世の中が漸次進歩いたしますにつれまして一般思想の上にも變化のある事は
今更申上る迄もない事で御座います。明治の中世まで殆んど廢れて居りました
凡ての式事も以降最近に及びまして著しく復興して参りまして婚禮の儀式の
如きも小笠原流とか雲上流等又は神前結婚佛前結婚などの簡潔な式も大いに
尙はれる様になりましたのは全く社會の總てが物質的に傾むいて参ります反
動がたまゝ人生にとつて最も意義ある結婚の機會に於て現はれて來たので
御座います不肖私が多年花道上より見たる婚禮諸式を研究したる所を一般に
露骨公開し皆様の参考資料に供せんと欲する次第で御座います

見合説明

最も信任すべき媒介者の談に因りまして双方共に身分血統氣心などの大體が判り容姿才學の如き事は何れに致しましても親しく其人については是れを視尙其の人の就學せられたる學校又は塾に就て聞合せそれなればと話しがまどまり然し何んな人か一寸見ねば氣が濟まぬと言所より双方に差支へのない日時を定めて公園とか公會堂物詣に事よせて見合を行ひます、それは歩行の姿勢に依つて其人格を知ると言ふのであります、唯媒介者の口ばかりに便りて當の推量に任せますと言ふ事は覺束なき事で見合をして双方の性質を知るのではありませんが一回二回の面識位にては逆も充分に知る事が出来ませんから久しく交際して双方の性情を熟知する事が必要で御座います然し乍ら女子様は外出なさる時が少なう御座います故に好機會に依りまして見合なさるのも宜しう

御座います。斯くして見合滞りなくすみまして双方意に叶へました時は、聲様の方より媒介者をして婚約の印にと男持の末廣を奉書に包み水引を掛けた上に壽の字と聲様の名を認めて嫁方に贈ります、是は豫め御用立としまして持参するもので近頃は嫁方よりも女持の末廣を前と同じ様に包み双方取かわす事もあります

尙又現代的に思想適合しました見合と申しますと昔は簡單であつて單に向様のお顔を見るといふ丈けで極めて粗末なもので御座いましたが然し男様は勿論女様の教育が盛んになつて参りました今の御婦人も大いに自覺を持つて居られます、假に御両親が「これなれば」と見極めをお附になつた向様にしましても自分の理想に合はない否未だ先方の性情も能く呑み込む事が出来てゐないのに盲從的に承知する事は出来ませんで此處は親御様達も其自由を認めて頂きたいもので御座います自身に致しましても一生一代の大事ですから充分に向

權の總てを觀察熟考して取返しのかぬ様な事のないようご御思案遊すのも御無理のないことで御座ります尤そこは世事に長せられました親御様が「この人ならば」と御定めになつたので大した間違はなからうと存じますが唯單に只今の様に顔を見合はす位では誠に覺束ないことと存じます先方の御両親様と御話なさる事は申上るまでもなく御本人同志も胸襟を開いて御話する事に努めて頂きたいもので御座います内氣な御嬢様に初めから不躰に話しは出来ぬと仰せられるかも知れませんが未來永劫苦樂を共にせられます良人ですもの妻ですもの見合は此の様に徹底的にいたしたいもので御座います次に結納。結納飾。荷物目録の認方。荷飾及荷出しの事。荷物受渡し等家々にて行ひ方いろ／＼となされますから之は畧いたし置きます

里出の式説明

先づ嫁の方より奥入の式日を探ね合しますと婿方にて黄道吉日を選びて結婚の式を擧げる事になりますいよ／＼當日になりますと花嫁は盛裝して両親に暇乞の時父母より結婚後の心得を説き聞かされ我家を出るに先ちて里出の盃をいたすもので御座います普通は式三献の盃をいたしますその御座敷の列順は床の間に對する上の方を父其次に父の方の親族下座に新嫁の母座して次に母方の親族次の間には召使のもの共一統残らす列して名残りの盃を汲み交すので御座ります

御輿入服装説明

服装も種々ありまして袴袴にお髪はおすべらかしの大禮服などもあります。一般に行はれます。其の日物馴れた介添女の指圖にまかせまして黒赤白振袖三枚重ね、又小袖三枚重ねにて東京地方では多く黒赤白の三枚重ねを御用ひになります。醫はいづれも高島田にて上帽子をかぶります。さて嫁の一行が婚家へ着いたします。先づ休息室に案内されまして暫く休息の後、此所にて夜裳を改むるか。又そのまゝ衣紋を直し化粧を直しなどします。介添の女は取急ぎ本式に依つて湯漬の飯を進めます。又略して湯と菓子にてすます。こともあります。その間に媒介者以下それ〴〵打合せをいたしまして嫁御は媒介者の妻に婿様は媒介者の夫に連れられ第一席の通り合盃の式が挙げられます。まづ室に入り神前に禮拜して圖の如く着席いたしました。して三々九度の盃があり陰の謠にて芽出度式を終り婿様より披いて少憩嫁御は色直しがあつて綿帽子を抜き親子盃に移ります。

親子盃の圖解説明

盃の取交せは先づ二献受て三献目に加へ婿の父呑み花嫁に差す花嫁呑みて姑に參らする是れにて納まり又婿の母より呑み初めて花嫁に差婿の父盃を納めます。尙又家において兄弟の盃を同時に行ふもあり兄弟の盃を親族盃とともにするもあります。暫く少憩引續き親族の盃が行はれます。

親族盃圖解説明

席順は奉書紙の横に認めそれを心覺として着席致させます盃の順序は初の盃は婿の父より初め媒介の妻にて納めます二の盃は嫁の父より初めて媒介人の夫にて納めます三の盃は嫁の父より初めて嫁迄順に流嫁より婿の父にさし順に流して媒介の夫にて納めます盃が終ると媒介夫は式首尾よく相濟む旨を挨拶して親族の披露をなし次に親族の者相互に挨拶を述べて休憩いたします休憩中に嫁御は衣裳を更め同時に室の神床飾を撤し芽出度き書幅に掛けかへて座蒲團火鉢又は煙草盆など入ます此時普通床使用されたり

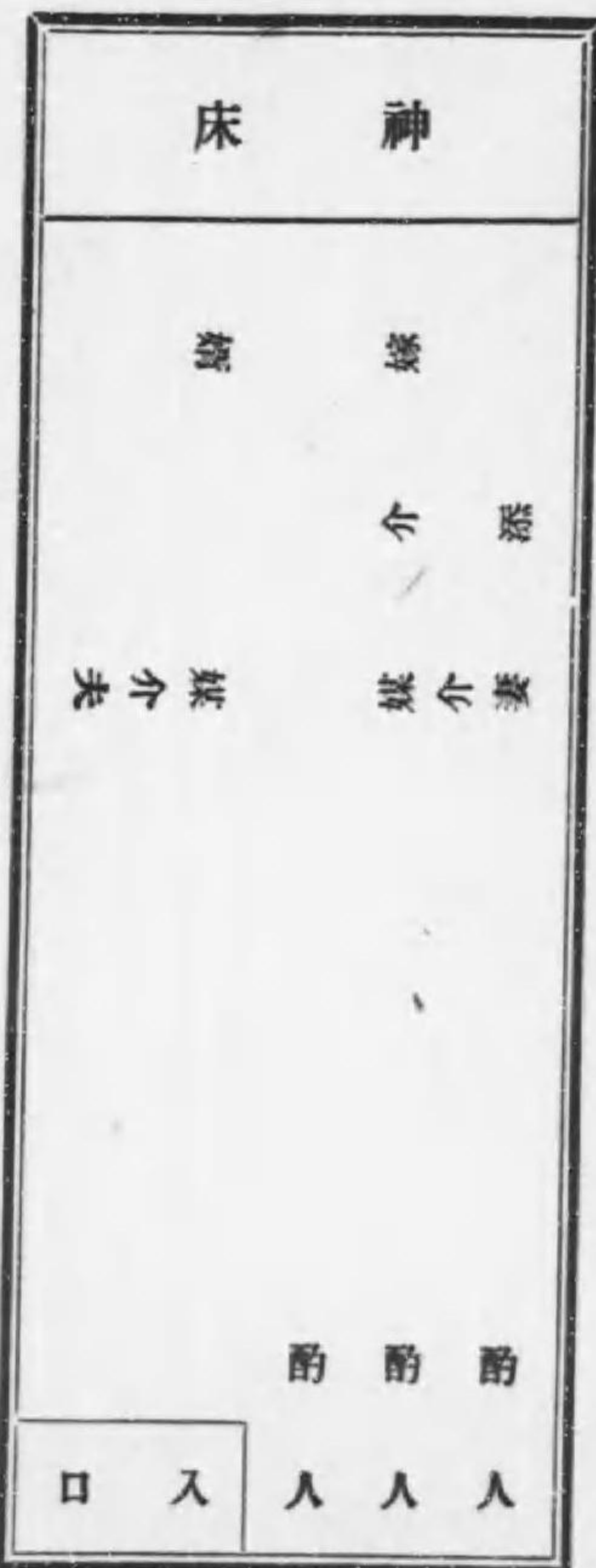
興席圖解説明

此の席で本膳を出し新郎新婦には祝膳を据へ嫁の花附御飯また鼻突御飯ともいふ高盛の小豆の御飯を婿に配けるのであります式が終りますと嫁御は衣裳を替へて宴席に移ります宴席は自宅でせらるゝも料理店でなされるものもあります此の宴席の半で花婿花嫁は座を退きて床盃を致します床盃待女郎婿を嫁の部屋へ案内します席次は嫁が主位になつて婿が客位でありますさて三寶の中に白米を入れて其上に鯉節二節紙に包みて水引を以て結びしを置きたると三寶へ土器二枚載せたるを出し酌取人銚子を持ち出で冷酒にて献々の盃をなすのであります先づ始の盃は婿が受け次に嫁にさせば嫁受けて呑みそれを婿にさし婿受けて納め酌人は下るのであります又畧して媒介の妻指圖して婿を誘ひ新夫婦對座させ提重に魚を入れしと塗盃一つ台に載せたものを出し献々盃などあるのであります此時婿より始めてものを申されまは初言葉として大事で一言をも重んじて假りにもはしたなき事は口にせぬよう然し唯思ひに沈みては互に心の通じ難きものですからその邊を心得又花嫁の一言も鶯の初聲にひとしくたへず夫の耳にとゞまるものですから注意なさねばならぬ事でございます

部屋見舞と花歸説明

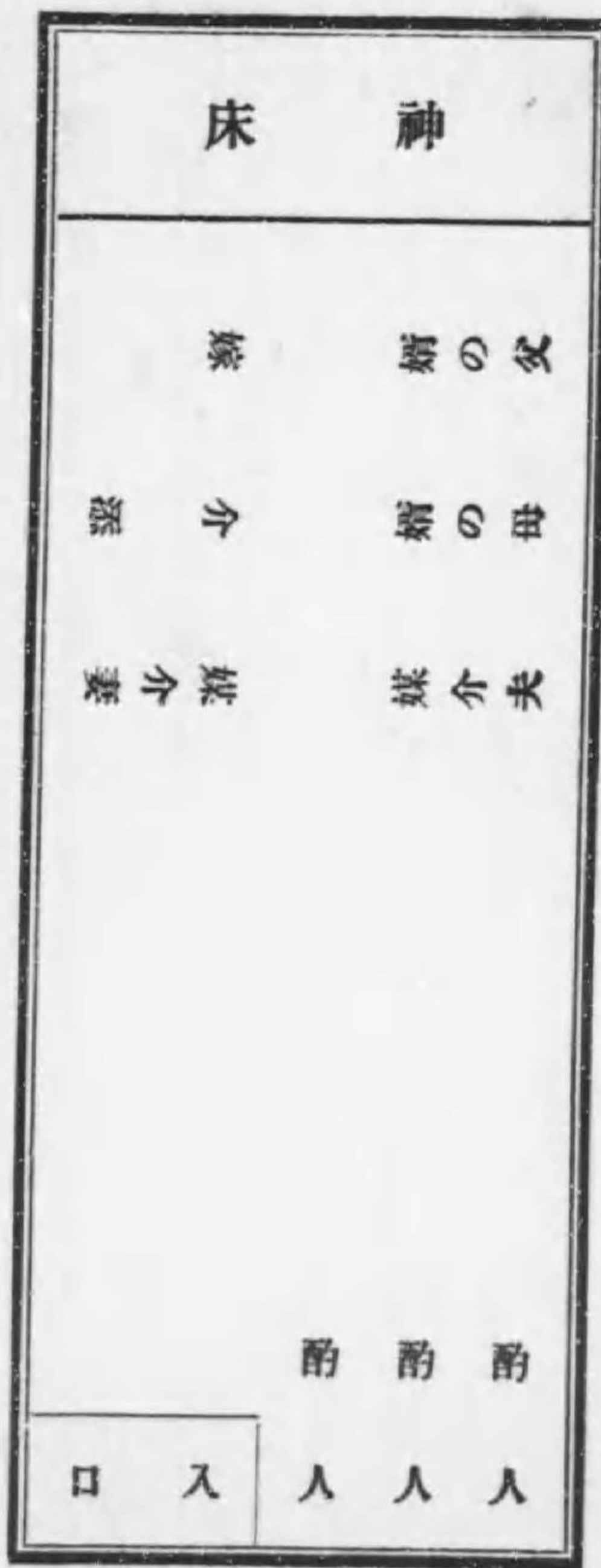
翌朝嫁方の親族より新夫婦の機嫌を尋ねいろいろのものを贈ります又部屋よりは親里へ夫婦機嫌よく家内殊に賑々敷様子を介添人に言ひ送らします午後には嫁方の親族の夫人令嬢婿方の親族の夫人令嬢又至つて懇意な知己の御夫人御令嬢を招きて親密な御顔合せの御披露を行ひます婚禮の夜より五日目にあたる日に朝早くより嫁は親里に行のでこれは五日歸りと申ます俗に三日歸りと申しますのは五日を畧しまして三日目に歸りますから謂ふ事で此頃神前結婚行はれ引續き宴に移り後ち新夫婦新婚旅行遊ばす方も多くあります婚禮床飾等は口繪の圖解に注意されたし

第一席合盃の式圖解説明



女り通 謠 陰

第二席親子盃圖解説明



女り通 謠 陰

283
27

發行所

嚴禁
複製及
複寫

大正十二年十月十日印刷
大正十二年十月十五日發行
大正拾貳年拾月廿五日

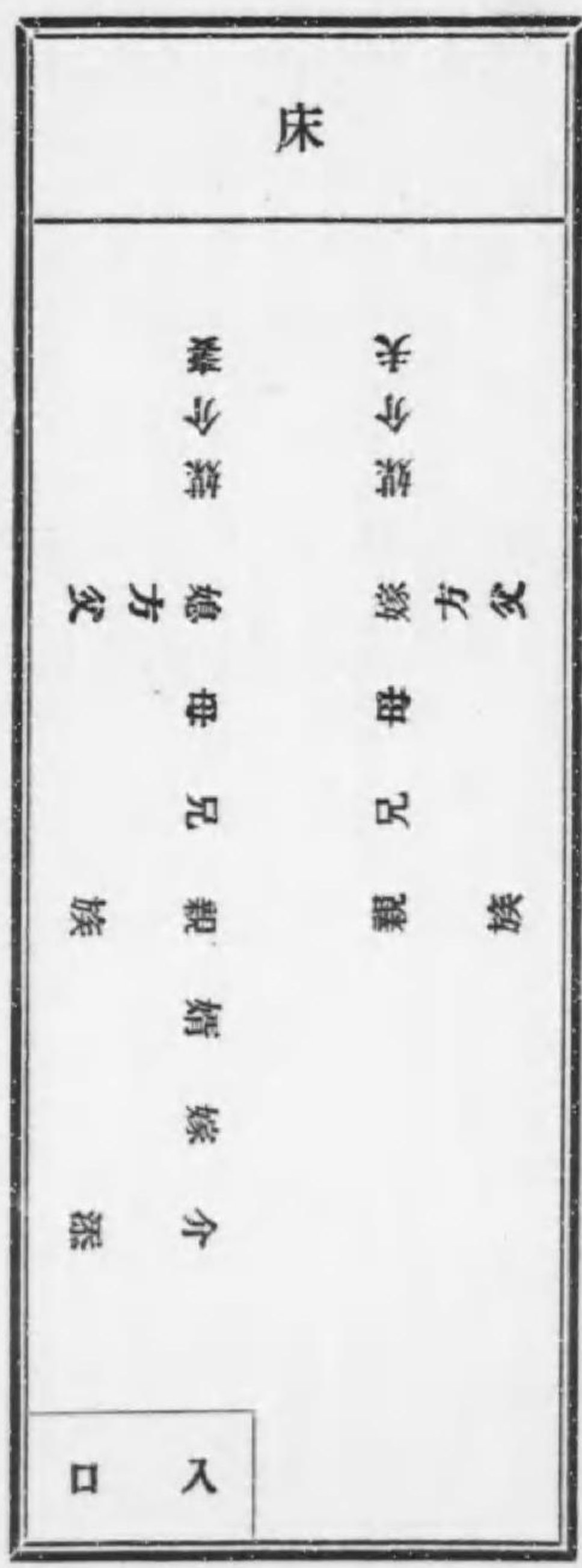
京都府佛具屋町魚棚上ル
著作兼發行者
笹岡桃流齋
印刷所
森大進堂

京都府佛具屋町五條南入
華道盛投花入講習會本部
振替大阪四七三九七番

第三席親族孟圖解說明



興席圖解說明



終